

平成22年度

協働推進ワークショップ
報告書

小金井市市民部コミュニティ文化課

目 次

■ 1	事業の概要	1
1)	背景と目的	1
2)	事業の内容	1
3)	体制	2
■ 2	ワークショップの実施	3
1)	プレワークショップの開催	3
2)	ワークショップの開催	8
3)	協働事業の企画案	42
■ 3	協働推進ワークショップの成果	45
1)	協働事業実現の可能性	45
2)	新たな交流と信頼関係の醸成	46
3)	協働モデル事業としての実施	46
■ 4	協働事業推進に向けて	47
1)	協働3事業の取り組みの広報周知	47
2)	協働による活動の維持、継続、拡大、拡充	47
3)	多様なセクターとの連携	47
4)	活動指揮の確保、予算措置	48
5)	協働事業の確認と評価	48
■ 5	資料編	49

■ 1 事業の概要

協働推進ワークショップ委託事業の概要を以下に整理する。

1) 背景と目的

平成21年度協働推進支援調査委託は、市内のNPO法人等の市民活動団体等に対して、協働に関するアンケートやヒアリング調査を実施し、その課題等を把握し、市民に有益な協働事業の展開に資することを目的として実施した。

平成22年度からは、小金井市市民協働のあり方等検討委員会（以下「委員会」という。）が新たに設置され、その場で市民協働や（仮称）市民協働推進支援センターのあり方が検討されている。

また、市民協働支援センター準備室（以下「準備室」という。）も、開設日を拡大し、委員会の事務局補助業務を行ながら協働支援を強化している。

そこで、平成21年度協働推進支援調査の結果を踏まえ、委員会とも連携しながら、市民も行政も同じテーブルの中で話し合い、協働の機運の増進を図り、市民の要望をふまえて市民に有益な協働事業の展開につなげていくため、ワークショップを実施した。

2) 事業の内容

本事業は、委員会、準備室、本市の協働の推進を牽引しているNPO法人連絡会等と密接に連携しながら実施した。

また、行政と市民活動団体等が、具体的に協働を進める立場で市民の要望をふまえて話し合いを進め、その内容を委員会にも適宜報告した。

（1）ワークショップ

ワークショップの実施、運営に際しては、次の事項もあわせて行いながら資料作成、話し合いなどを進めた。

- ①平成21年度協働推進支援調査結果の説明と、これに基づいての意見交換を行う。
- ②ワークショップでの検討内容を委員会へ適宜報告する。
- ③ワークショップ参加者に対し、委員会での検討内容を適宜報告する。

3) 体制

本事業は、ふるさと雇用再生特別基金事業として、NPO 法人ひ・ろ・こらぼと協働推進支援調査委託契約を締結し、綿密に協議しながら実施した。

地域から雇用者を雇い入れ、本調査に役立つ情報を提供してもらうとともに、スキル等の共有を図ることに配慮しながら作業を進めた。

○ふるさと雇用再生特別基金事業

地域の雇用失業情勢が厳しい中で、地域の実情や創意工夫に基づいて地域求職者等の雇用機会を創出する取組みを支援するため、都道府県に対して「ふるさと雇用再生特別交付金」を交付し、これに基づく基金を造成する（基金は平成23年度末まで）

- ・ 地方公共団体は、地域内でニーズがあり今後の地域の発展に資すると見込まれる事業のうち、その後の事業継続が見込まれる事業を計画し、民間企業等に事業委託を行う。（地域の当事者からなる地域基金事業協議会において事業選定等）
- ・ 民間企業等が求職者を新たに雇い入れることにより雇用の創出を図る。

■ 2 ワークショップの実施

ワークショップは、委員会が庁内各課を対象に実施したアンケート調査及びヒアリング調査の結果から、協働事業にふさわしい取り組みを抽出し、ワークショップで取り扱うテーマに位置づけた。

また、これに先立って市民と行政職員を対象に本格的な取り組みへ誘導するプレワークショップを設定、開催した。

これらワークショップの開催概要を以下に整理する。

1) プレワークショップの開催

ワークショップ形式による協働事業の検討に入る前に、話し合いのすすめ方や、市民、市職員双方が話し合いの場や空気に慣れておくことを目的に、プレワークショップを開催した。プレワークショップは2回開催し、その概要を以下に整理する。

(1) 第1回プレワークショップ

第1回プレワークショップの開催概要は次の通りである。

○開催日時：平成22年9月24日（土）9：30～12：00

○開催場所：前原暫定集会施設A会議室

○参加者数：15人（職員6人、市民7人、準備室2人）

○プログラム

あいさつ	○今日のメニューは… ・グループごとに自己紹介
グループワーク①	○みんなでクッキング！～その1 ・みんなの好きな食材で料理してみよう ・何ができるかな？ ・発表
グループワーク②	○みんなでクッキング！～その2 ・ちょっと苦手な食材が登場！ ・もう一度料理 ・発表
質疑	○「まとめる」こと ・意見交換
あいさつ	○おわりのあいさつ

○第1回プレワークショップの内容にかかわる主なキーワード

①「まとめる」こと～合意形成

- ・十人十色、千差万別～場所が変われば人も違う
- ・80点主義
- ・6～7割の満足度

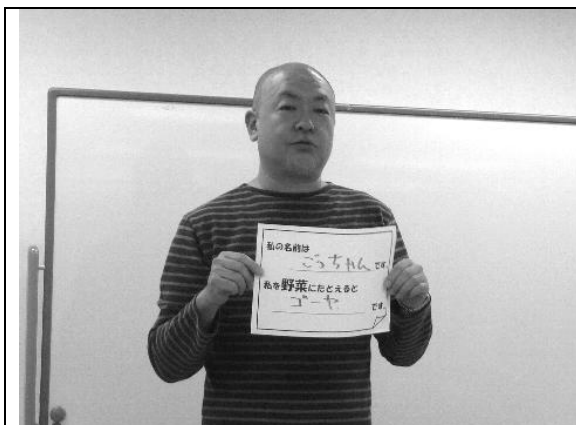
②残しておく～切り捨てない

- ・少数意見の取り扱い
- ・拒否しない～受け止める

③落としどころ

- ・どこに向かうのか
- ・どのような形になるのか
- ・誰に何を伝えるのか

○会場の様子



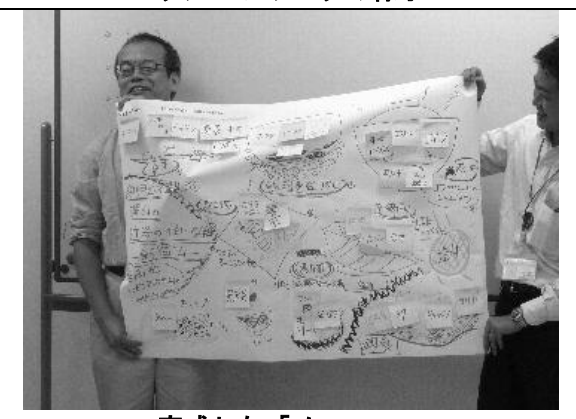
カードを使った自己紹介



グループワークの様子



グループごとの発表



完成した「メニュー」

○第1回プレワークショップの内容

まず、最初に自己紹介カードを使って全員で自己紹介を行った。

そのテーマは「私を野菜にたとえると」で、それぞれが考えていることや印象などを共有することを目的として行い、互いに早めに打ち解けていく（アイスブレイク）ための方法であることも併せて紹介した。

その後「料理」をテーマに2回グループワークを行った。

1回目のグループワークは、話し合いの素材を出していくところから始め、それを使って「こんだて」をまとめていく作業を通じて、確認しながらまとめていくことを体験していった。

また、2回目のグループワークでは、各自が「苦手な食材」を出し、材料に追加していくことを条件に献立をまとめることを課題とした。この設定により「意見を切り捨てない」で話し合いの成果をまとめていくことなどを共有した。

(2) 第2回プレワークショップ

第2回プレワークショップの開催概要は次の通りである。

○開催日時：平成22年10月8日（土）9：30～12：00

○開催場所：前原暫定集会施設A会議室

○タイトル：カラダを使って 話し合ってみよう！「やってみよう！公園づくり」

○参加者数：22人（職員11人、市民10人、準備室1人）

○プログラム

あいさつ	○今日の作業は… ○公園づくりの条件を説明
グループワーク	○公園をつくってみよう ・どんな公園にする？ ・何を置く？ ・誰が使う？ ・公園の名前は？ ・発表、見せ方の工夫も
発表 と 意見交換	○グループごとに発表 ○ふりかえり、意見交換
あいさつ	○おわりのあいさつ

また、次ページに公園の条件をあげます。

◆公園のプランをつくります

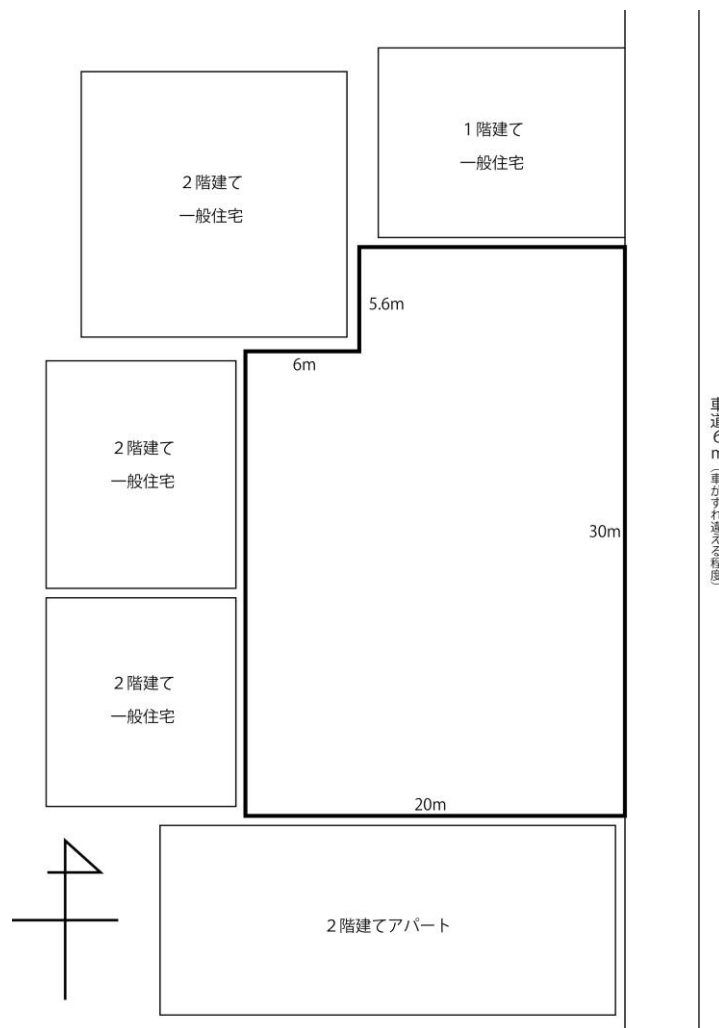
○その条件は…

- ・住宅地につくる公園の整備案を決める（使い方を話し合いながら）
- ・三方を住宅、一方を車道に囲まれた60㎡弱の敷地
- ・道路の北 350mのところ小学校があり、この敷地はその学区域
- ・道路の南 150mのところ高齢者向けの施設がある
- ・予算等は考えない（常識的な範囲で）

○決めること

- ・整備の案
- ・公園の名前

◆ 公園予定地 見取り図 ◆



○第2回プレワークショップの内容

第2回のプレワークショップは、「公園のプラン」の案を仮に想定した条件に従ってまとめていく内容にした。敷地の大きさや周囲の状況などをどのように捉えてグループ内で整理していくのか、その作業を共有することを目的にした設定である。設定している条件が同じなので、出てくるキーワードや考え方は共通のものがあるが、具体的な内容になるとグループ毎にかなり違いが出てくる。

また、キーワードが同じでも「物事をつくる」ときの発想はそれぞれ異なり、一つのプランにまとめていく際の絞り方、案の採択の仕方により全体の方向性や位置づけに変化が現れる。このことを、理屈ではなく体験を通じて進めていくことに重点を置いたプログラムとした。

発表後、それぞれのグループの案に対して確認、質問する時間を設けた。この確認によって、グループごとの話し合いの内容、レベルなどを相互に確認することができた。

また、市職員や市民など様々な立場の人が受け答えすることにより、双方が持っている基本的な考え方やスタンスなどを情報として共有することができたと考えられる。

2回のプレワークを経て、協働事業をまとめていくワークショップの企画、開催に入っていた。

2) ワークショップの開催

プレワークショップに引き続いて、話し合い、協議によって協働事業をつくっていく話し合いの場をワークショップ形式により継続的に開催した。

ワークショップは、他市の取り組み視察を含めて5回開催し、事業のあり方や目的、体制やすすめ方などについて話し合い、まとめた。

ワークショップは、次表のスケジュールで進めた。

○協働推進ワークショップ 全体スケジュール

日程	内容	概要
第1回 11/13(土) 9:30~12:30 前原A	第1回 つくっていこう! 協働事業	○あいさつ・概要説明 ○自己紹介~全員で ○協働事業の説明 ○グループワーク・発表
第2回 12/4(土) 9:30~12:30 前原A	第2回 つくっていこう! 協働事業	○あいさつ・前回ワーキングのふりかえり ○事業ごとにグループワーク ○グループごとに発表
第3回 事例視察を 4回実施	第3回 つくっていこう! 協働事業	①(仮称)ロケーションサービス事業 ・NPO日野映像支援隊 ②樹木廃材粉碎事業 ・調布市 環境部緑と公園課 ③コミュニティポータルサイト運営事業 ・八王子コミュニティポータルサイト「ハチポ」 ④(仮称)ロケーションサービス事業 ・立川フィルムコミッション
第4回 2/19(土) 9:30~12:30	第4回 つくっていこう! 協働事業	○あいさつ ○どうやってすすめる?協働事業 ○事業ごとにグループワーク
第5回 3/5(土) 9:30~12:30	第5回 つくっていこう! 協働事業	○あいさつ ○事業ごとにグループワーク ・協働事業の企画案を作成 ○4月以降の取り組みについて

また、このワークショップで取り上げるテーマ、内容は、並行して設置されている「市民協働のあり方等検討委員会」が行った市内各課を対象としたアンケート調査の結果から抽出したものである。

その結果、次の3事業を協働事業の検討材料として本ワークショップでとりあげることになった。

○ワークショップで取り上げた3つの事業

事業名	概要
①樹木廃材粉碎事業	回収貯蔵した枝木の粉碎チップのたい肥化処理について、公園花壇に関わる市民などとの協働により、たい肥化作業から、肥料としての活用までの流れを地域循環型にしていきたいと考えています。
②コミュニティポータルサイト運営事業	小金井市に係わる地域情報・市民活動情報を収集し、発信していくサイトを市民とともに立ち上げ・運用していきます。
③（仮称）ロケーションサービス事業	映画、CM、ドラマ等の製作者に対して、ロケ地等（施設、景観、公園等）に関する情報を提供することにより、放映後にロケ地が、観光スポットになったり、まちのイメージUPにもつながることが期待できます。

また、事業の内容やすすめ方について話し合っていく際のルールを定め、話し合いの冒頭で参加者間の共有を図った。

話し合いのルールを以下にあげる。

○話し合いのルール

1. 参加者は自由、活発に意見や提案を出しあいましょう。
2. 他人の意見や提案を批判するのはやめましょう。
3. 「〇〇して欲しい」ではなく、「〇〇したい」という建設的な提案をしましょう。
4. 量も大事です。たくさんの意見、提案を歓迎しましょう。

(1) 第1回ワークショップ「つくっていこう！協働事業」

第1回ワークショップの開催概要を以下に整理する。

- 開催日時：平成22年11月13日（土）9：30～12：00
- 開催場所：前原暫定集会施設A会議室
- 参加者数：29人（職員11人、市民17人、準備室1人）

○プログラム

09：30	開 会	○あいさつ・事業の説明
09：40	協働事業の説明 ～これからの可能性は？～	①樹木の廃材による腐葉土作り事業 ②コミュニティポータルサイト運営事業 ③（仮称）ロケーションサービス事業
10：25	自己紹介	○全員で行います ・小金井の好きなところは？ ・なぜ参加しましたか？
10：55	休憩（10分）	○話し合いたいテーブルを選びます
11：05	グループワーク 事業ごとの話し合い	○事業ごとに3つのテーブルに別れて ・事業の現状と課題について ・どのような事業にすれば、より多くの人たちがかわれるか
12：05	発 表	○事業ごとに
12：30	閉 会	○次回の予定

○会場の様子



自己紹介はカードを使って行った



発表の様子

次ページから、グループ毎に話し合って発表した内容をまとめる。

■ 樹木廃材粉碎事業

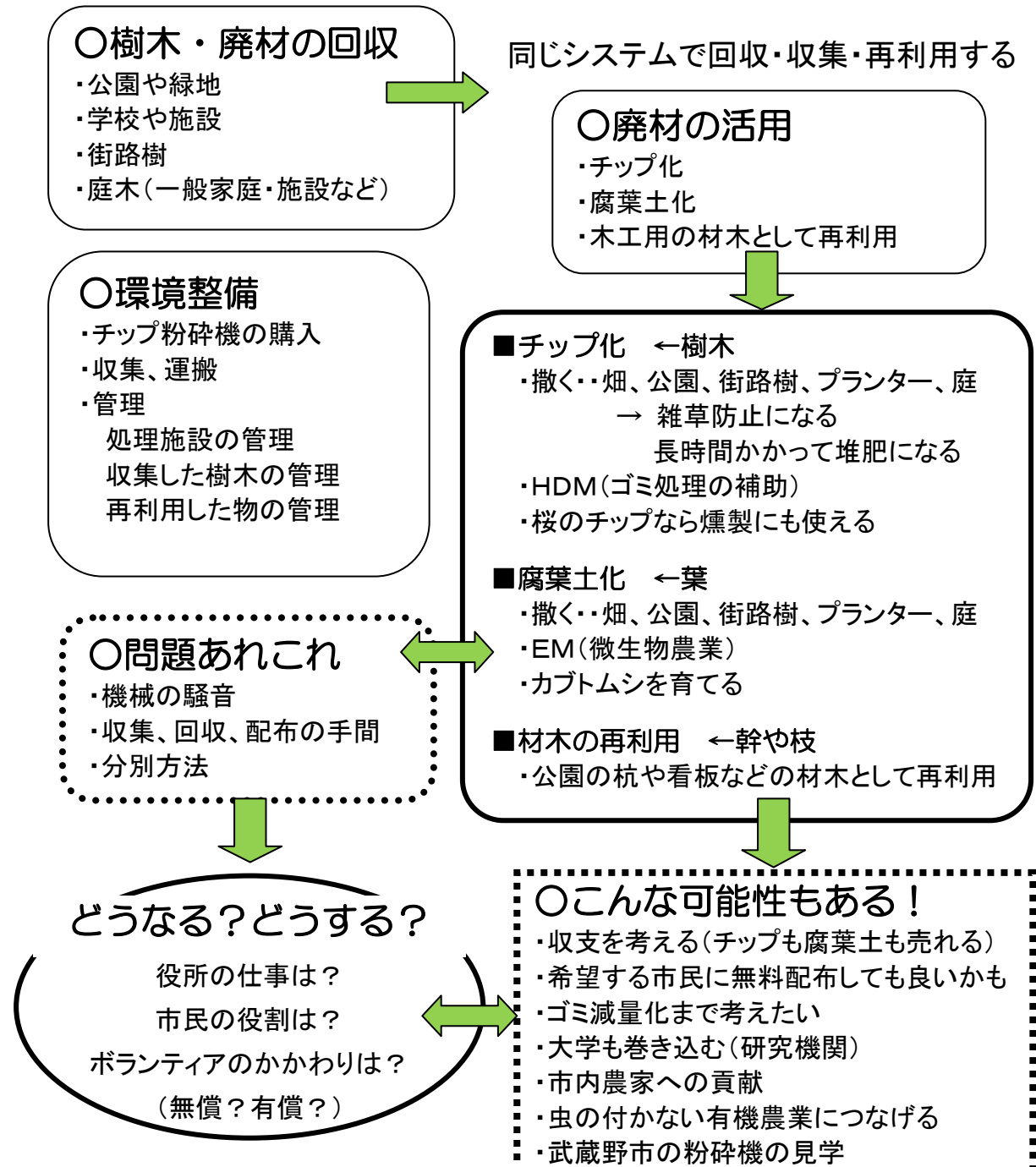
○現 状：市内の公園や緑地の樹木廃材を回収

→ 三楽公園に収集 → 年1回（年末）にレンタル機械にて粉碎
（その他の廃材は回収等別扱い→産廃などで処理されている）

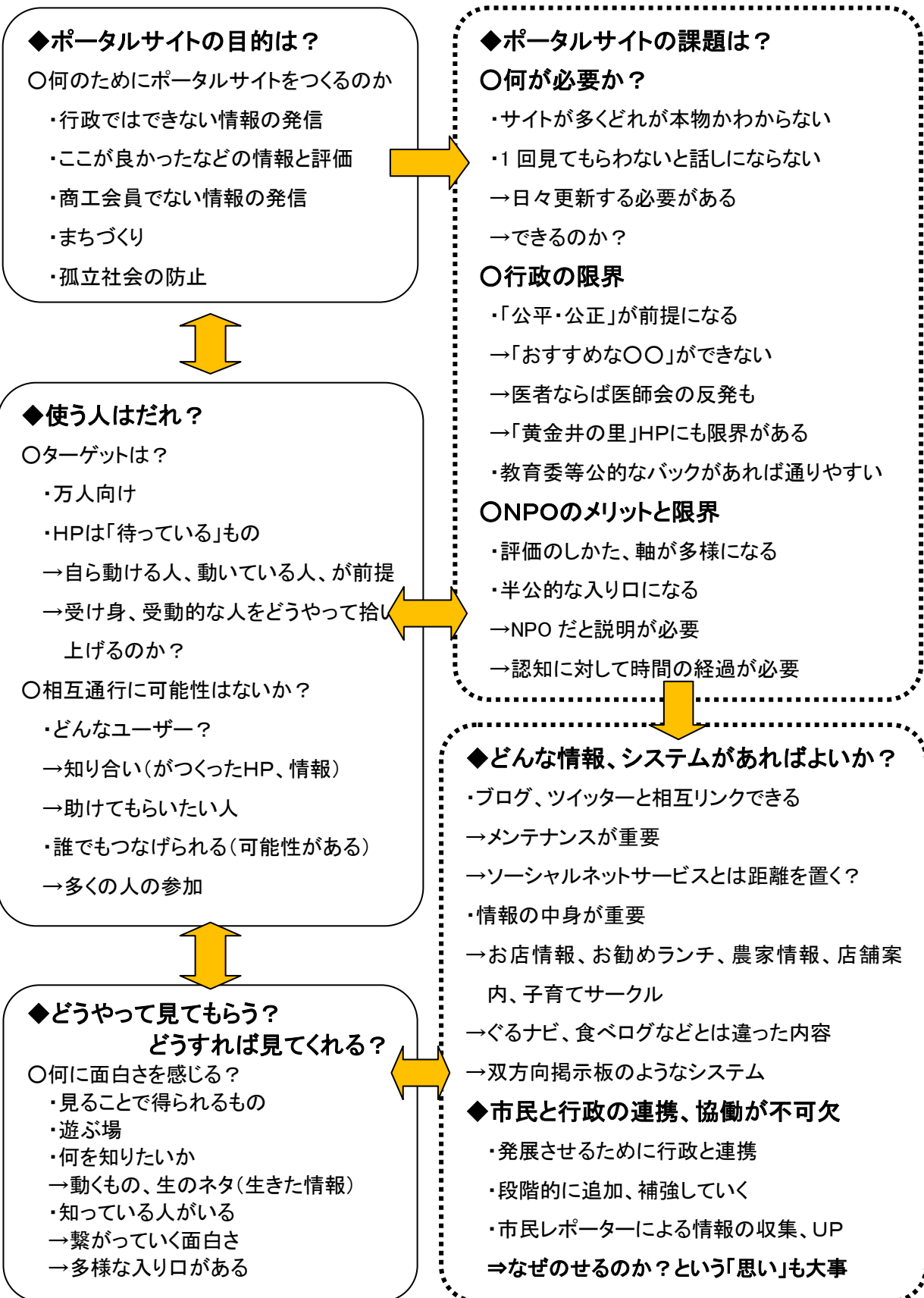
⇒協働事業としての基本的な考え方

◇産廃で焼却するより、全て有効活用したい

◇市民や市内の農家も利用できる循環型システムがいい



■コミュニティポータルサイト運営事業



■（仮称）ロケーションサービス事業

●事業提案の具体的なイメージ

期待する目的

- 直接的効果
 - ・地域振興
- 間接的効果
 - ・住民満足度UP
 - ・住民増加（転入）
 - ・観光客UP

フィルムコミッションに参加

- メリット：信頼性
- デメリット：条件拘束（非営利団体、窓口一元化、作品問わない）
⇒FC化しなくても、東京都やロケーションナビ紙等で広報は可能

事業主体

- このWSでつくっていく
- どんな連携が可能か？
 - ・行政、市民、企業ほか
 - ・専門家（アドバイザー）
 - ・お金

●情報の収集と発信 小金井でのロケのあり方は？ 民家？ 公園？

収集：市民参加型

- ロケ地候補の登録募集
 - 撮影使用された場所リストアップ
⇒マップ化
 - 市報・市HPで募集
 - ポータルサイト事業と連携、ポータルサイトHPに投稿場所を作る
 - 市内のプロ・アマチュア写真家から写真募集
 - ・アマ：嫌がる人もいる
 - ・市内の神社の写真を撮り、自費出版している人もいる
 - 写真投稿、アンケート調査
 - ・JR「中央線が好きだ！」小金井版を募集、作成、展示する
 - ・町ごとに情報収集のイベント実施
 - 子どもたちにも呼びかけ
 - 経済課・広報課は写真、情報のデータベース化を進めている最中
- ※募集のタイミングも要考慮

例えば…

- 東町：個人宅の大きな屋敷林
- 市内各所に大きな家、古い家が多い
 - ・団塊世代の地域帰還で日中在宅が増えているはず
- 新小金井駅周辺の田舎っぽい雰囲気がいよい
- 江戸東京野菜を売りに
- ディープな情報も求められている
 - ・あまり教えたくない私だけのお気に入り
 - ・ふつう、当たり前の場所（撮影可）

実はもうこんなに使われてる！

- 野川（アリエッティなど）
- くじら山（ドラマやグラビアなど）
- 古い武蔵小金井駅南口風景（うる星やつらなど）
- 新小金井駅前商店街、原っぱ、ラーメン街道
- アド街ック天国、J-com、ちい散歩ほか
 - ・ジブリの活用
 - ・情報収集はどうやったのか？

カナダ・バンクーバーをモデルに！

40年前は寂れた町並みだったが…

ある映画の撮影を機に、

- 景観条例の策定、名勝旧跡の修復、公園・廃屋等景観の整備
- 各国の映画・ドラマ等で人気のロケ地に
- 現在は観光産業も発展

発信：多様なツールが必要

- 映像で紹介：動画のほうがイメージしやすい
- WEBで紹介：関係者はまずWEBで情報収集
- 小金井で映画を作っちゃう：紹介を兼ねるが、ストーリー性も確保。

(2) 第2回WS

第2回ワークショップの開催概要を以下に整理する。

○開催日時：平成22年12月4日（土）9：30～12：00

○開催場所：前原暫定集会施設A会議室

○参加者数：25人（職員10人、市民13人、準備室2人）

○プログラム

09：30	開 会	○あいさつ
09：40	ふりかえり ～初回の話し合いは？～	①樹木の廃材による腐葉土作り事業 ②コミュニティポータルサイト運営事業 ③（仮称）ロケーションサービス事業
09：50	視察先の紹介	○第3回に行う視察先の案を紹介 ・グループワークで確認します
10：00	グループワーク 事業ごとの話し合い	○事業ごとに3つのテーブルに別れて ・簡単に自己紹介 ・協働事業に向けての課題を再確認 ・視察先で確認したいこと
11：30	発 表 ～グループごとに～	○話し合いの流れ、方向を紹介
11：50	閉 会	○あいさつ ・次回の予定

○会場の様子



ロケーションサービスの話し合い

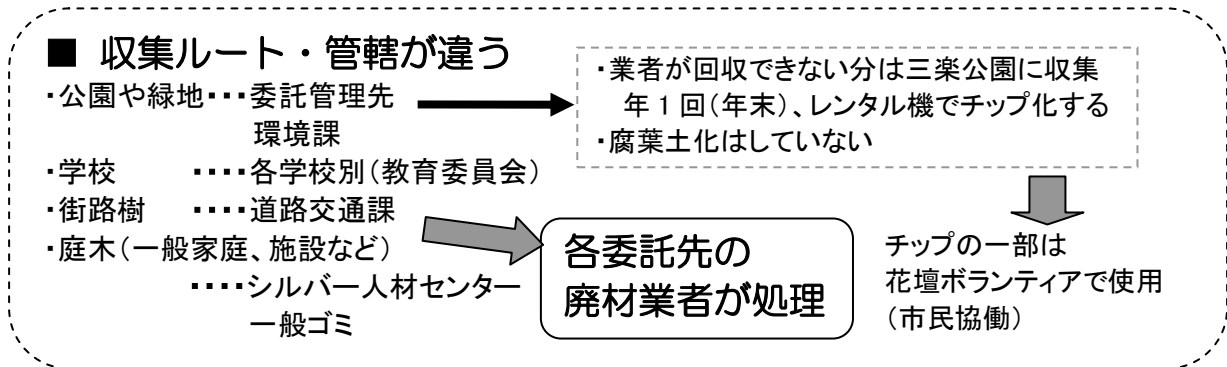


樹木廃材粉碎事業のグループ

次ページから、グループ毎に話し合っ発表した内容をまとめる。

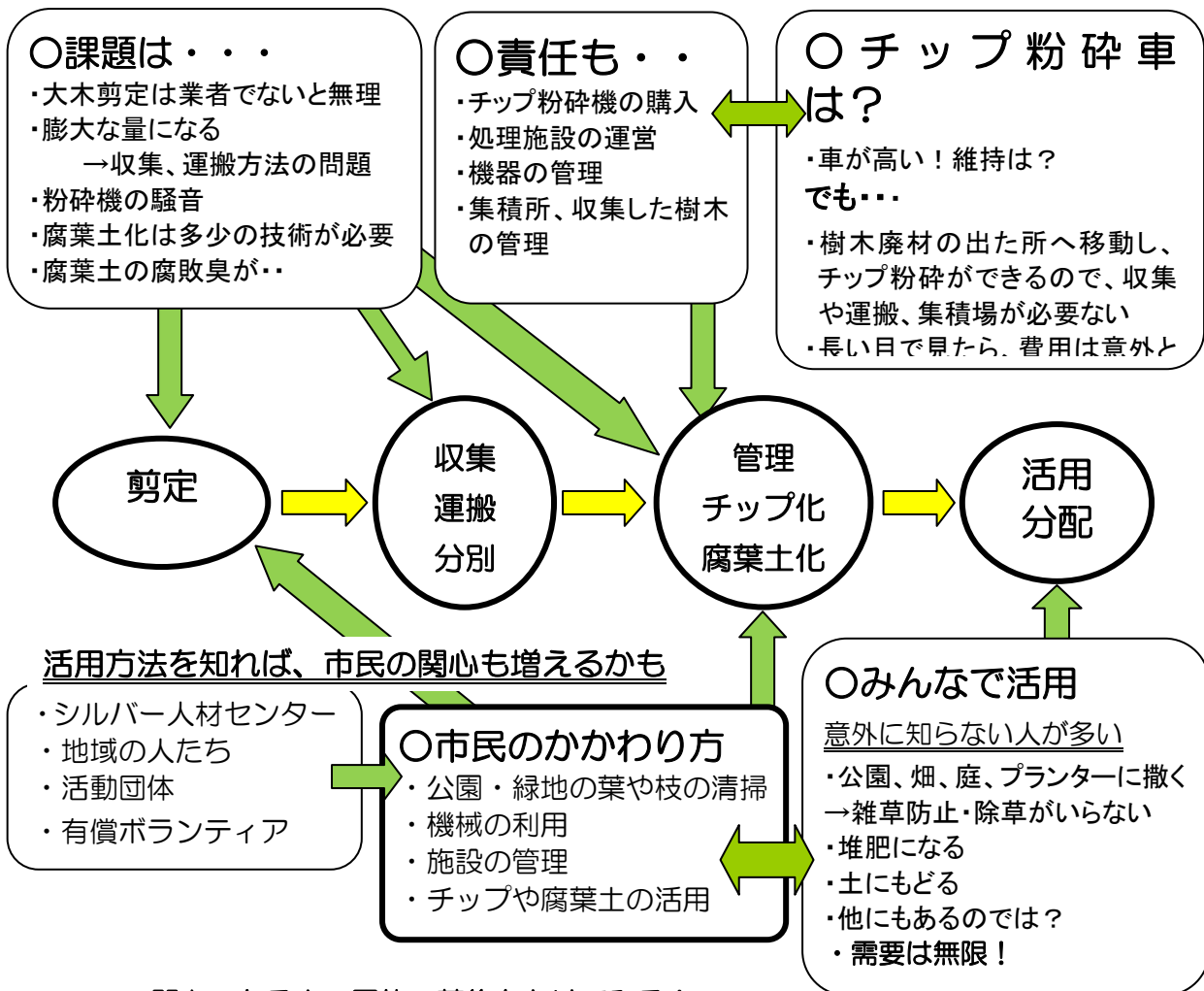
■ 樹木廃材粉碎事業

○ 現 状：最終処理は委託業者が行っている…チップがどこへ行くのか解らない!



⇒協働事業としての基本的な考え方

- ◇ 廃材全てを有効活用する
- ◇ 市内全体で利用できる循環型システムの構築をめざす



関心のある人・団体へ募集をかけてみる!

○来年度・・・かじの公園の一部に落葉集積所を建設予定 →

腐葉土作り
(チップは未定)

■コミュニティポータルサイト運営事業

■目標は？

- 「まち」「人」=小金井を見せる
- ・小金井市のいいところ「緑」以外にもいえるように。
- ・リタイヤ後、地域に入るための情報収集。
- ・知らない人を知る。人に焦点をあてる。

■コンテンツ

- ・アクセス数に応じてコンテンツ更新を行う。
- ・市HPの「施設予約」「図書館」などリンクを貼り付ける。
- ・記事の更新→写真も

■課題

- ・取材と情報更新が大変
- ・ネタも大事だが一発屋では先細ってしまう
- 常に次のネタを用意する。定期的に。

◆どんなポータルサイトに？

- ・ポータルサイトは窓口か
 - ・ポータルサイト→結果 or 過程→まちづくり
 - ・困ってから見る or 普段から見るもの
- ◇なにを「魅力」にする？
- ・ブログ、ツイッターの魅力はレスやフォロワーのフィードバック
 - ではポータルサイトの魅力はどこに？

■運営に向けて

- 思いが大切
- 関係者のモチベーションをどうやって維持する？
- ・なかなか人が集まらない
- 有償で行う？
- 必要なのは？
- ・リンク集ではない魅力
- ・盛り上げるためのネタ
- ・なにを求めているかリサーチ
- しっかり運営するのは大変
- ・システムよりも内容が大切

■誰が使う？

- 万民向け…
- ・ターゲット→小金井市民、小金井市外
- ・市民のどの世代にスポットを当てるか
- ⇒万民向けだと市報みたいにならない？
- インターネットを使えない人もいる
- ・高齢者や主婦層は口コミ重視？

■小金井市 HP

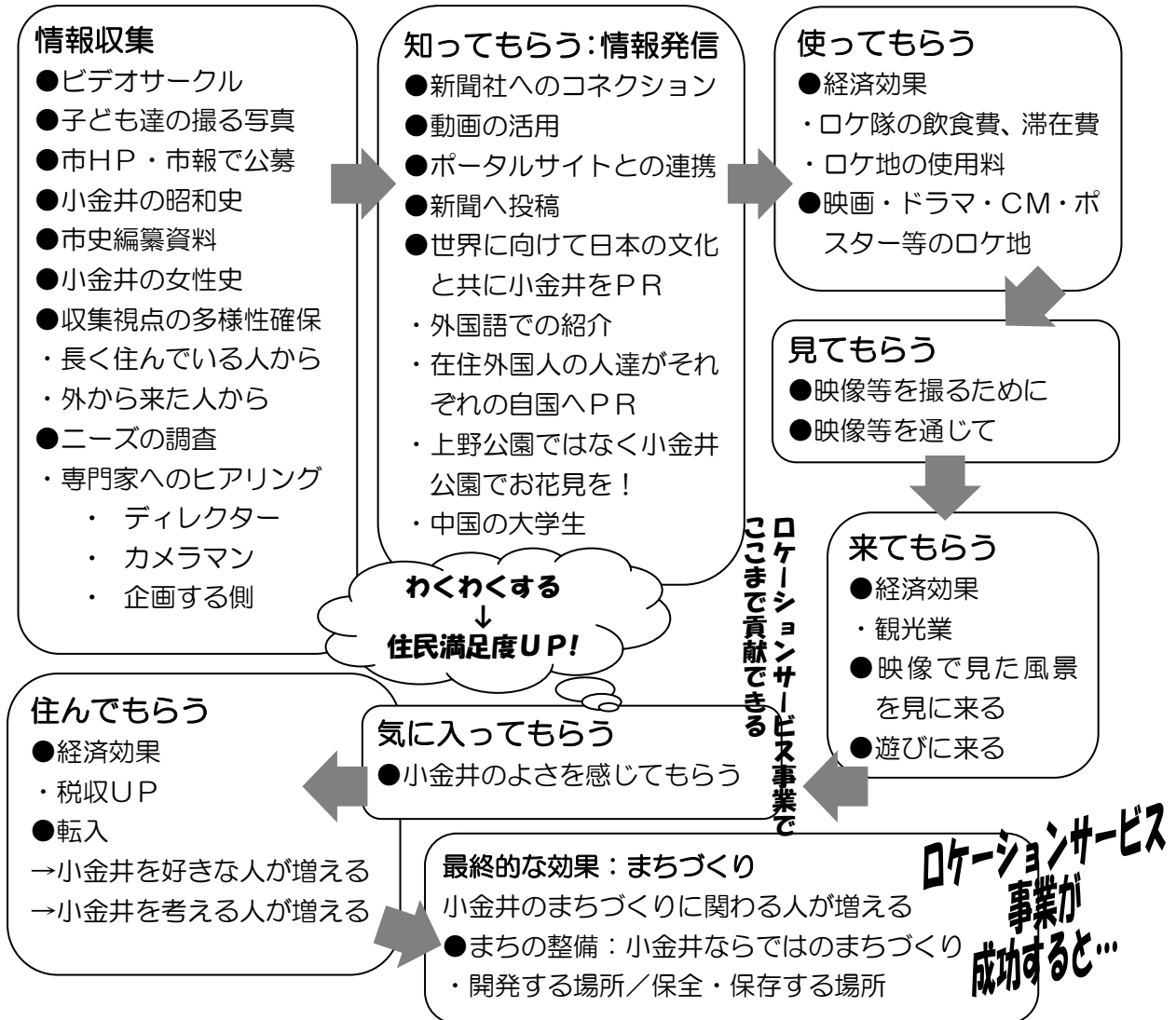
- ・H14年ウェブコミュニティの取組を進めた
- がサイトの枠組みしか出来なかった。
- 職員間の意識の統一ができなかった。
- ・こきんちゃん公開で、アクセスが殺到。
- 初日約1万件のアクセス。

■自治体の先例は？

- ・三鷹のマネはしたくない…
- ・厚木は40年進んでいる
- 立ち上げて盛り上げる瞬間は他市も巻き込む
- ・行政が主体→第三者評価はいいが大変だしエネルギーを使う。そのエネルギーをほかの事に生かしたい。

■（仮称）ロケーションサービス事業

●こがねいロケーションサービスものがたり



イチオシスポット

- ・東町の大きな家（門と林しか外から見えない）
- ・いちご橋（東町）
- ・新小金井駅周辺（使われたことあり）
- ・わんわん公園（新小金井駅前）
- ・個人宅：肖像権・情報保護の問題/行政だけでなく市民からの交渉も必要/自主登録制
- ・東大通りのイチョウ並木（開発中のため現在は車通りも少ない）
- ・武蔵野公園・野川公園・野川
- ・西武多摩川線の高架の風景
- ・坂
- ・水と緑が多い
- ・素朴さ
- ・季節ごと風景（期間・時期限定の風景）
- ・現在の風景とその場所の歴史的背景

視察先

1/15（土）日野 NPO 法人が運営、フィルムミッション外

1/22（土）立川 観光協会が運営、フィルムミッション加盟

●聞きたいこと

- ・なぜロケサービスを始めたのか：目的/設立当初の話
- ・運営組織体制は
- ・情報収集・発信の方法
- ・フィルムコミッション加盟のメリット、デメリット
- ・事業の収支は
- ・事業をして何が変わったか：経済効果は？市民参加は進んだか？

(3) 第3回ワークショップ ～先進事例視察～

第3回ワークショップは、検討を進めている3つの事業に関連する他市での取り組み事例の視察を行った。

視察先は、各取り組みの担当課にお願いし、アポイント、すすめ方、日時等の調整、当日のすすめ方などについてもそれぞれ調整いただいた。

視察は、(仮称) ロケーションサービス事業の2回を含んで、全4回行った。

そのスケジュールは次表の通りである。

○第3回WS～先進事例視察のスケジュール

事業名	視察先	担当者	日時	集合場所・時間
① (仮称) ロケーション サービス事業	日野 映像支援隊	代表 中川節子さん	1/15 (土)	武蔵小金井駅 改札口 9時45分
② 樹木廃材 粉碎事業	調布市 多摩川 市民広場	緑と公園課 徳永さん ～どんぐり林公園の落ち葉集積 環境政策課 秋山さん ～環境市民会議の動き チップ車乗務員の皆さん ～実演と活動紹介	1/17 (月)	武蔵小金井駅 北口7番バス停 12時20分
③ コミュニティ ポータルサイト 運営事業	八王子市 「ハチポ」	副編集長 後藤広明さん 市職員1名	1/21 (金)	武蔵小金井駅 改札口 14時25分
④ (仮称) ロケーション サービス事業	立川 フィルム コミッション	地域産業振興課 星野智哉さん 市職員1名	1/22 (土)	武蔵小金井駅 改札口 14時25分

それぞれの視察の報告を次にまとめる。

①（仮称）ロケーションサービス事業 日野映像支援隊

- 日 時 : 平成23年1月15日(土) 10時30分～13時00分
- 視察先 : NPO日野映像支援隊 中川代表
- 参加者数 : 13人(職員4人、市民9人)

1. フィルムコミッション (FC) について

- ・1940年 アメリカ発祥～経済効果をねらったのロケ誘致
- ・2000年 日本に導入～大阪・横浜が最初

○FCの三原則

1. 紹介料をとらない
2. 作品を選ばない
3. ワンストップサービス

○ジャパンFCについて

- ・登録金:年間10万円、いつでも抜かれる。今、特に登録のメリットはないと感じている。

○多摩地域フィルムコミッション連絡会について

- ・多摩地区(11地域)の有志自治体や民間団体のゆるやかなネットワーク組織。
- ・官民協働で、観光とFC事業を結ぶイベントの開催をしている。

1) 団体設立の経緯

○ロケサービスを始めた理由

- ・日野市は車が少なく、都心からのアクセス良好、普遍性のある風景がある。
- ・映像プロデューサーだった中川さんが、「日野市が賑えばいい」と近所の友人に声をかけた。

○設立の経緯

- ・2001年に「日本にFCが入ってきた」と大阪・横浜がNEWSで取り上げられた。
- ・日野市で中川さんと友人が議員に相談し、行政主導で始めていた横浜を見学。
- ・友人などに声をかけ、任意団体「日野映像支援隊」を2001年4月設立。最初は会員10名程。
- ・まちウォッチングから始めた。市長へのアプローチをし続けた。
- ・2003年頃、八王子舞台のドラマロケが日野で行なわれ、ロケ隊支援をする。
- ・2004年、市からの要望により、NPO法人化「NPO法人日野映像支援隊」へ。
- ・市長の理解を得られ、学校施設の使用許可が下りた。
- ・2005年、木村拓哉主演の連ドラ「エンジン」で日野市が大々的に取り上げられる。
- ・同年、実績を認められ、市から観光振興事業委託を受け市民活動センター内に事務局を設置。
- ・同年、他地域との情報交換の場として、多摩地域FC交流会を開催。
- ・2009年、多摩地域フィルムコミッション連絡会「ドラマチック@TAMA AREA」を組織。
- ・多摩地区ロケ地ツアー開催。都市長会より広域連携事業として補助を受けている。

○現在の運営組織体制

- ・日野市から観光振興事業委託（年間300万円）を受けている。
 - ・多摩地域フィルムコミッション連絡会の事務局も担っている。
 - ・事務局は現在3名、常駐者2名（1日1人・代表中川含）。他にロケ立会いの専任が1人いる。
 - ・総合相談窓口（ロケ地情報提供と案内、エキストラ・弁当の紹介）がロケ支援の仕事。
- 製作会社からロケ支援依頼を受け、日野市内の施設・公園・民間建物などを紹介、相互の条件を調整しロケに漕ぎつける。ロケには会員が立ち会う（ロケ立会い）。
- ・ワンストップサービスは行なっていない。紹介にとどめている。
 - ・会員は主婦や商店の人など日野市の一般市民で、男女比率は50%、30-40代女性が多い。
- ロケ立会いとして、撮影現場での市民と制作の間で撮影が円滑に進むよう現場整理を行なう。
- ・ロケーション先登録はHPで募集。会員に限らず、市民からの申請や所有者自己申告も多い。
 - ・エキストラ登録は200名程。ボランティア参加で記念品程度の謝礼が出る。
 - ・施設使用料の条例を市でつくった →基本使用料（1日）：屋根あり1万円、屋根なし3千円。
 - ・芸能プロやロケマネとのつながりは特にない。
 - ・HP掲載のみで売込み宣伝は一切していないが、問い合わせは増加している。

○事業の収支について

- ・市からの委託金、年間300万円で回しているが財政的には厳しく、経済基盤は弱い。
 - ・会員年会費千円、会員数は現在40～50名程度で流動的。
 - ・経費は主に電話代。他に事務局と専任のロケ立会い人には時給を付けている。
 - ・撮影時に発生する使用料は撮影隊と施設所有者とのやりとりで、紹介料は取れない。
 - ・大変な労力がかかった撮影の時は、製作会社へ協賛金をお願いした例がある。
 - ・2011年は、経済基盤の見直しを検討。
- 不動産系など企業を絡ませてマージンを得る方法を考えている。若い人たちを雇用できるようにしていきたい。

2. 事業を続けてみて

■重要ポイント

- ・まちにあるものが資源なので、どこに何があるのかの把握が必要。
- TVや映画の映像シーンを浮かべながら風景、情報を集める（公園遊具や新旧取り混ぜて）。
- 小金井旧市役所西庁舎はとても良い。古い建物が好まれる。
- ・都会ではなく田舎風景、どこにでもある、どこにも成りえる普遍的な景色が求められている。
 - ・経済効果はあまり見込めない。地方は撮影全体を誘致できた場合の経済効果が大きいですが、東京はパーツ（一部分）のオファーが殆どのため。
 - ・施設使用料などの条例づくりが必要。
 - ・問い合わせ時は写真も出すが、できるかぎり現地を見てもらうように案内している。
 - ・取り決めは重要。特に現状復帰と終了時間の規制は厳しくしている。

- 最初に双方で現状写真を撮り、最後にロケ立会い人と確認する。ゴミは必ず持ち帰り。
- ・注意事項や取り決めなど契約書は交わすが、当日もロケ立会人が同様に気を配っている。
 - ・撮影現場のロケ立会いは、1～3人は必ず出る（道路使用以外）。立会人のフレンドリーな対応がクレームの芽を摘み、市内での次の撮影を受け入れてもらえることにつながる。ロケ立会いは前もってトレーニングし、基本的には誰でもできるようになる。
 - ・専任のロケ立会人には、本人と相談のうえ時給算出で報酬を出している。
 - ・ロケ中の現場写真を記録しておく。実績としてのHP掲載（肖像権の関係で俳優の写ったものは公には使えない）やイベント用パネル作成等、情報発信に利用。基本NGだが撮る。

■その他

- ・行政の論理的な考えより、楽しみ優先のミーハー的な気持ちで始めた方が良い。
- 仕事の中にどれだけ楽しみを見つけられるかが継続のポイント。
- ・法人化などは急がずに、必要性が出たときに考えれば良い。
 - ・団体内に映像関係者がいなくても、1回やればFCがどんなことをするのが解る。
 - ・FCは自分の意志で作品は選べないが、施設所有者が作品内容を確認して断ることができる。
 - ・市立病院や学校など公共施設がロケ場所として開放されると、民間施設がついてきやすいので、市長や校長が乗り気だと話しが進みやすい。
 - ・ロケ先の決定権は監督にある。制作部からのオファーがあっても最終的には利用してもらえないことが多いので、期待しすぎずに受け身で構えた方がいい（日野では2～3年かかった）。
 - ・映像系の業種の人たちは変った考えの人が多く、一般常識で捉えないこと。
 - ・徐々にFCの認知度が上がっているので無謀な撮影隊は減ってきているが、ルールを守らない製作会社は断るようにしている。
 - ・映像テロップやエンドロールで、ロケ支援隊や市名が出るのと反響が大きい。
 - ・会員は、TVや映画好き、日野市が好き、日野の存在を周知したいという市民。
- ロケ立会いは楽しみ優先で参加している。
- ・ロケ等を通して、会員やその他の市民の“まちの風景を見る目”が変わる。
 - ・メディアに載ることでまちが周知され、若い人（中学生など）たちが自分のまちを再確認、良さを見直してくれている。市民が自分のまちを好きになる→まちの活性化につながる。
 - ・現在、多摩地域FC連絡会で、3ヵ年計画での地産品のロケ弁を試作中。のし紙・割り箸袋デザインや賞味会を行なっている。

3. 次回ワークショップへの課題・検討要項

- ・持続性のある組織をつくるために母体（主体）をどこにおくか。
- どんな人が運営を担うのか？
- ・経済効果以外の効果
 - ・経済効果が見込めない場合の財政をどうするか。
- まち全体の経済効果と運営資金は別のもの、目的をどこに据えるのか

- ・キーパーソンが重要
- どんなキーパーソン？

○視察の様子



ひの市民活動支援センターに伺った



映画と日野が大好きな中川さん



熱心さが伝わってくる中川さんのお話



ルールはあるが現場の記録も必要

②樹木廃材粉碎事業 調布市環境部緑と公園課

○日 時 : 平成23年1月17日(月) 14時~15時40分

○視察先 : 調布市 環境部緑と公園課 徳永さん・環境政策課 秋山さん

○参加者数: 13人(職員3人、市民9人、準備室1人)

1. 樹木廃材のチップ化について

- ・昔は全て焼却処理をしていたが、廃材樹木を堆肥化まで有効活用することでゴミの減量化や資源再生循環をはかるためにはじめた。
- ・事業開始当初は、粉碎機を作業場に設置し持ち込まれた樹木を粉碎する計画だった。作業場設置先が河川敷内にあたり建設問題がおこったため、移動チップカーの計画に変更した。
- ・市直営のチップ化は、現在、一般家庭の樹木と市内公遊園の樹木(一部)。
- ・学校・公共施設・街路樹は各担当課等で業者委託しており、最終処分方法までは分からない。

■チップ化までの流れ

○公園樹木(倒木など)~緑と公園課(剪定・運搬を行い、作業場にて粉碎・堆肥化を行なう。)

- 1 .公遊園からの依頼を受け、出勤。チェーンソーで剪定・回収 →作業場内へ運送
- 2 丸太は薪割り機で、チップカー投入口に入るサイズまで裁断
- 3 チップカーにて粉碎
- 4 ウッドチップは学校等に配る
- 5 枝葉が含まれる廃材樹木はチップ化後、糠と混ぜ堆肥化するものと混ぜないものに分ける
→まかれる先の畑作物などによって異なる

○一般家庭の樹木~ごみ対策課(チップカーが出勤し、出向いた先で粉碎を行なう)

- 1 市民からの要望を受け、出勤。剪定までは各宅でもらう。
- 2 出勤先にて樹木の粉碎。チップは各宅での引き取りになる。
(チップ化した物をゴミとして処理する場合は、チップカー出勤の対象にならない)

■チップカーの維持(駐車・維持について)

- ・ごみ対策化事業予算は400万円。
- ・チップカーの所有は、ごみ対策課1台(リース)、緑と公園課1台(購入)。他に、薪割り機。
→薪割り機 約80万円、チップカー 約900万円は購入。ごみ対策課車は高額のためリース。
- ・ごみ対策課のチップカー(一般家庭用)は、1次粉碎・2次粉碎とチップの大きさの設定可。
- ・チップカー用の刃研ぎは半年に一度ほど(3~4万円位)。薪割り機の刃は研いだことがない。
- ・薪割り機はガソリンで動かしている。車に乗せられる。
- ・河川敷作業場にて、薪割り機とチップカー駐車・保管・作業、堆肥化、公園内のゴミ集積をしている。

■出勤の際の必要人数、求められる技術など

- ・ 1班3名で市職員（緑と公園課17名、ごみ対策課20名程）が交代で動いている
- ・ 基本は毎日作業だが、チップカー出動も含めて作業は季節や時期によって変わる。樹木量の多いときは1日作業になることもある。薪割り機、チップカーとも取扱いに資格は不要。
- ・ 一般家庭用は全て電話予約制（調布市役所HPなどに、対象になる樹木の規定や詳細について掲載している）。連絡・問い合わせ窓口は課が受け付けしている。
- ・ すべて市職員が手作業で行なっている。市民ボランティア等は全く入っていない。

■騒音等について

- ・ ごみ対策課の家庭回り用チップカーは音も静かで、騒音クレームが出たことはない。
- ・ 緑と公園課のチップカー音は、開始当初近隣マンションから苦情がきたことがあった。
- ・ 樹木やサイズによって粉碎音が変わる。
- ・ 堆肥化は糠混ぜも含めて、問題になるほどの臭くない（始めは少しだけ臭うらしい）。

■現在の市内でのチップ車利用戸数・チップの実利用について

- ・ 現在チップ車利用戸数はまだ、700戸ほどの利用（市内戸数1%程度）。
- ・ 市内での利用率があがらないのは周知不足と自家処理（各宅引き取り）の問題がある。
- ・ 公園への出動は、落ち葉苦情などがあるときと管理先からの要望があるとき（樹木剪定時期や倒木があるとき）。
- ・ 公園樹木のチップや堆肥は全て無料。農家や市民農園、他希望する市民に作業場へ取りに来てもらう。需要は多く足らなくなる（土壌改善に使用されている）。
- ・ ウッドチップは倒木などの丸太からしか出ない。需要が最も多く、主に学校がほしがる。

■事業を続けてみて

- ・ 事業開始5～6年で、まだ一部の利用だが軌道に乗ってきた。
- ・ 有効・利用性に検討の余地があると行政評価が出ている。市民利用者の拡大を図っていくこと、各宅での自家消費方法も含めての周知が今後の課題。
- ・ 堆肥化は作業場で行なっている。粉碎チップの糠混ぜは、雨が降ったら攪拌（かき交ぜ）する。量があるので水道水ではお金がかかりすぎてしまう。
- ・ 混入用の糠は購入している（割合は1：1）。たまに好意で市民からもらえる。
- ・ 有機物の自然循環などは特に進めていない。
- ・ 公園ベンチの補修等も緑と公園課職員で行なっているが、廃材樹木を使うことは殆どない。
（参考資料：HP掲載内容・調布市行政評価事業マネジメントシートあり）

2. どんぐり林公園 落ち葉集積の近隣住民によるボランティア的管理・活用の現状

- ・市内のどんぐり林公園に落葉集積場を設置したところ、近隣の住民達によるボランティア的管理が自主的に行なわれるようになった。市への団体届けがあるわけではないので、行政側では経緯や活用状況などを全く把握していない。今後も特に関与する予定はない。
- ・集積場は今後も雑木林などを対象に設置を増やしたいとは思っている。

3. 調布市環境市民会議での、環境市民団体と行政の協働の現状

■「ちょうふ環境市民会議」設立経緯

- ・1999年、「調布市環境基本計画の市民との協働」を市民参加で策定し、2001年に協働の話合いの場として「ちょうふ環境市民懇談会」を設置。
- ・2002年より、雑木林塾、野川イベント・講演会・WS、冊子作成等を市民主導で企画運営。
- ・2009年3月、行政からの独立・自立をはかり、ネットワーク型市民組織「ちょうふ環境市民会議」を設立。現在、調布市「雑木林塾」事業を委託し運営、行政との協働を進め大成功している。

■「雑木林塾」事業、協働を続けて

- ・環境に詳しい人材を育てていくための勉強・実践経験を積む講座の開催（年6回）をちょうふ環境市民会議で開いてもらい、協働で進めている。
- ・市民同士のネットワークで人が集まり、動いている。人海戦術が行政とは違う。
- ・塾に参加した学生や市民が事務局に入ってきたりボランティアになったり、団体の継続力がある。
- ・環境政策課とは役割分担をしながら共同で事務局をしている。
- ・実践の場、国分寺崖線を環境政策として市が仮受け提供している。

4. 参加感想・課題

■感想

- ・ゴミからの野菜作りに取り組んでいる。チップは微生物農業にはかかせない。
- ・小金井の中で着手するための問題点の検討余地あり
- ・協働には興味があるが、どういう目的でこの事業を市民側に取り入れるかは課題だと思う。
- ・参加者の関心が見えた。小金井ではどうできるか。
- ・チップ騒音が体験できてよかった。
- ・ゴミゼロ化を目指したい。見学してイメージが沸き、やれそうな期待はあると思う。
- ・市民参加が見えなかった。小金井では協働で考えていきたい。
- ・自然でできたものは自然にかえせればいい。機械の使用や問題点を具体的に考えれば協働で行えるのではないか。

■次回ワークショップへの課題

- ・小金井市での樹木廃材粉碎を市民との協働でどのように進めるのか？
→目的、目標について話し合っていく
- ・ゴミゼロ推進につなげて事業化できるようにイメージづくり
- ・現在の樹木廃材量（数値）をわかる範囲で用意する

○視察の様子



廃材の丸太



木っ端に切断する



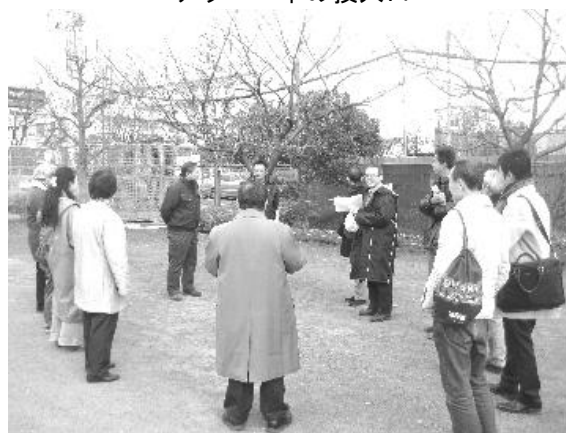
チップカー



チップカーの投入口



粉碎された木片



事業内容についてお話を伺った

③コミュニティポータルサイト運営事業 八王子「ハチポ」

○日 時 : 2011年1月21日(金) 16時~17時30分

○会 場 : 八王子市役所 IT 研修室

○視察先 : 八王子コミュニティポータルサイト「ハチポ」

八王子市役所総務部 IT 推進室 松井氏・鈴木氏・菅野氏
save project 後藤氏

○参加者数 : 12人(職員5人、市民6人、準備室1人)

1. ハチポについて

- ・「ハチポ」市民・市民団体が主体となり、自ら八王子地域情報を発信し、地域の活性化と市民同士のコミュニケーションの強化を計ることを目的としたポータルサイト。

○「ハチポ」立ち上げまで経緯

- ・平成18年に行われた地域情報化企画検討委員会のなかで、市民が中心になったポータルサイトづくりの提案があり検討した。
- ・平成19年11月に行われた「学生と市長とのふれあいトーク」で東京工科大学平本研究所の学生たちが発表した「Web サイト、Hachipo 八王子市民の電子広場&電子ギャラリー」で、市に寄付された後、それを活かして八王子市地域ポータルサイト「ハチポ」をつくった。

○管理運営について

- ・市民が市民の目線で管理・運営を行うサイトであり、市が運営するのではなく、管理者を募集した。
- ・二団体からの応募があり、市と外部 CIO 補佐官で審査を行い、市民団体の save project に一任した。八王子市は運営当初から平成21年度まで期間についてのサイトの構築及び運営を助成しており、平成22年以降については運営団体による独立事業化を応援している。

○運営資金について

- ・八王子市地域ポータルサイト構築・運営費補助金
→交付額 平成20年度 1,478,000円・平成21年度 1,480,000円
- ・内訳 : コンテンツ制作費(取材・編集・企画運営費)、サイト運営費(サイト制作・更新費、通信回線・プロバイダ契約料、ASP等)、消耗品費
- ・物品貸与 : ノートパソコン、プリンタ、デジタル一眼レフカメラ、ICレコーダー

○コンテンツと更新について

- ・投稿参加型のサイトになっており、イベント情報や市民コラム、市民レポート・八王子グルメ等のコンテンツがある。
- ・コラムは市民が記事を書いて投稿する。投稿後に運営者が内容を確認し編集したものを掲載している。

- ・市民リポートは気に入ったものをレポートし、投稿している、以前はリポートにテーマを設けていたが、現在は自由にレポートを行っている。八王子グルメは既にあるものを利用。
- ・ツイッターの書き込みは、八王子と高尾山のキーワードを収集して自動的に表示するシステムになっている。
- ・別サイトとして SNS も提供しているが、当初無料レンタルサービスだったものが、有料化してしまい、持ち出しで運営している。
- ・一ヶ月のアクセス数は、5000件と多くはないが、コアなユーザーが増えたので存在意義を感じるようになった。運営資金がないので、ゆるやかに活動している、継続性が大切なので気張らずに行っている。

○質疑

Q：save project はどの様な団体ですか。

A：社会起業家などのインタビュー・サイトを行っているグループで法人格は持っていません。

Q：補助金の年限は最初から2年と決まっていたのですか。

A：当初から市民の方が自立することを前提にしていたので、決まっていました。応募の2年経った段階で独立する自立したプランを考えてもらいました。

Q：レポートの投稿者の名前は公開していますか。

A：ニックネームを公開しています。

Q：不適切な投稿はありますか。

A：投稿の段階で政治的・非社会的なものは載せないことを前提に投稿してもらっていますが、結果的に不適切や誹謗中傷的なものはありませんでした。

Q：サイトを寄付した東京工科大学との関わり現在はありますか。

A：あまりない。

Q：サイトの情報の更新作業はどこで行っていますか。

A：主に自宅です。

Q：週末に更新しているというお話でしたが、週末に更新が行えない場合はどうしていますか。

A：ゆるく行う様にしている、週末に行えないならば、平日に行っています。

○その他

- ・今後も携わる人を増やしていきたいが、その作業を行う余裕がない。
- ・やっていてよかったこと：サイトの運営を通して新たな人との出会いがあった。
- ・悩んでいること：モチベーションの維持。いつまで行うのか、サイトの意義とはなどを考えるとキリがない。
- ・市はサイトの運営に対して必要以上に干渉しないようにしている。
- ・他ポータルサイトの8割近くがあまり運営を行っていない状態にある、残り2割はかなり行政と協働で仕事としてサイトの運営に取り組んでいる様子。
- ・市としては、当初の目標である自立までいったので、目標は達成している。今後も市として

関われることに協力していく。

- ・運営に関して予算が無いため、運営の課題は見えているがうまく取り組めていない。
- ・ターゲットを絞れないため、アクセス数が増やせないなので、バナー広告の収入はあまり望めない。事業化も難しい。

2. 視察後の感想など

- ・サイトの立ち上げ自体はどうにかなると思うが、その後の維持は行政との協働が必要。
- ・東京工科大学の作ったサイトをベースに使っているということで、同じ展開があるかもしれない。汗を流した人には報酬を出すべきか？
- ・記事をつくる人が少ない。記事を作るには報酬も必要。
- ・報酬に地域賞品券等を使えば、地域興しにもつながるのではないのか。
- ・一人でもできるが、複数で行うほうが広がりを持てるのではないか。すごく大変そう・・・という訳でもなさそうだ。
- ・行政の立場としては金銭面でのサポートも必要。中立心が大切。一番の問題は継続性だと思う、継続できる仕組みを考える。
- ・立ち上げ自体は簡単だが、一人で行えるものではない。ボランティアに頼るのか？
- ・予算がないことにびっくりした反面、苦しくなさそうに見えた。協働になっているのだろうか？今後も話し合う場を持っていきたい。
- ・続けるのが大変そう、複数でネットワークになり支える構造が必要。
- ・イベント等でコミュニティポータルサイトの存在をアピールすることも必要。

○視察の様子



ヒアリングはITの研修室で行われた



資料の説明を受ける

③ (仮) ロケーションサービス事業 立川フィルムコミッション

○日 時 : 平成23年1月22日(土) 15時~17時

○会 場 : 立川フィルムコミッション 視察・情報交換会
立川商工会議室 役員会議室

○担 当 : 立川市産業文化部産業振興課 観光振興・産業政策担当主任 神谷聖治氏
立川商工会議所立川観光協会 星野智哉氏

○参加者数 : 12人(職員3人、市民9人)

1. 立川フィルムコミッションについて

○きっかけ

- ・平成18年頃から「立川市で撮影を行いたい」という問い合わせが多くなったが、当時は教育委員会や施設管理など直接問い合わせ、たらい回しにして協力できていなかった。
- ・同年に日野市や八王子市などの多摩地域でロケーションサービスを行う所が多くなった。

○目的

- ・他市の動きを受け立川市でも受付窓口の明確化を図る、またシティーセールスによる産業振興を目的として「立川フィルムコミッション」を市と商工会の協働で始めた。

○現在の運営組織体制

- ・開始当初と同じで市の産業振興課と商工会の立川観光協会組織というよりは事業という形態で行っている。
- ・受付窓口を産業振興課とし、立川市と観光協会が情報の共有を行い、市の施設の使用許可は市が、民間企業や地元商店との調整は観光協会が行っている。
- ・問い合わせは年間300件。100件が実際に撮影行っている。廃校、病院の問い合わせが多い。
- ・産業振興課と観光協会で行っている花火大会と同じ体制で進めている。

○情報の収集と発信

- ・過去には景観のデータベースなどもあったが、制作会社側のニーズにそぐわないことが多く、現在、情報収集は行っていない。制作会社や監督相互のロコミが多い。

○事業の収支について

- ・フィルムコミッション自体の予算はないが、現在あるもので十分に運営はできている。
- ・ロケ隊からもらえる台本やポスター・スタッフジャンパーなどを集めて、フィルムコミッション展を行っている。
- ・今後、運営を強化していきたいと考えているので、状況に応じて予算措置も考えている。

○事業を続けてきて変わったこと

- ・撮影の立会いなどは、当初は無理をしていたが、現在は撮影隊との意思疎通が図れるようになり容易に行えている。

○経済効果について

- ・フィルムコミッションの経済効果を数字で表すことは難しいが、ロケ弁当や宿泊費や施設使用料などで一定の効果は上げていると思っている。

○撮影隊とのかかわり

- ・撮影許可の条件として、立川市とわかる市内の景観を作品のなかに必ずワンシーン入れる、商工会会員の弁当をロケに利用することを促す（※弁当は商工会の会員店が提供する。値段は1000円から600円と幅がある）。
- ・ロケが地域振興へつながるようにしている。また立川市内の景観が入れない場合はエンドクレジットで「立川市」を入れてもらうよう依頼する。また、撮影保険の加入の有無の確認や、著作権使用の交渉などを事前に交渉しておく。
- ・撮影隊担当者の対応が良くないもの、立川にとって利益にならないものの撮影を断っている。
→問い合わせ時の電話の対応で判断している
- ・よい撮影を行うことにより、次回のロケ利用につなげられることを良い撮影隊はわかっている。マナーの悪い撮影隊はその後の撮影を断り、多摩連絡会に名前を流している。

○エキストラについて

- ・観光協会の会員にお願いすることもあるが、撮影隊の募集が基本。
- ・制作会社からエキストラの要請がある場合もあり、バスケット協会やサッカー協会に依頼したこともある。ボランティアの場合は記念品、ロケ弁当を撮影隊に用意させている。

○施設使用料について

- ・公園等の場合は、使用料の2倍の料金を請求している。
民間施設に関しては、その施設の管理者が独自に料金を決めている。

○市民との協働

- ・立川市は人口18万人の都市ではあるが200万人の商圏を持っており、市民に特化した協働事業を行うのは難しい面もある。
- ・いずれは市民参加型のフィルムコミッション事業を行いたい。

○地域のフィルムコミッションへの理解

- ・立川は撮影が多い場所、何か面白いことをしているという理解が浸透している。
- ・立川に住む子どもにとってはいい思い出になるのではないかと知っている。
- ・フィルムコミッションを通して市民参加のきっかけになっている。
- ・民間の企業も撮影に対して協力的になった。

○その他

- ・地域の環境などに即したシステムと小金井市がどのようなロケーションサービスを考えているのかを明確にすることが大切。

2. ロケーションサービスについて

○日野映像支援隊とくらべて

- ・市と観光協会の強固な組織で動いている。
- ・きっちりした、わかりやすい運営をしている

○小金井でのあり方

- ・小金井の目的・進め方をWSで話し合いたい。継続することが大切。

○準備すること

- ・情報の発信より要望に答えられるようにする準備が必要。
- ・小金井の情報発信を行うところを決める。
- ・小金井市のロケ、産業市のアピール、基準を明確にする。

○小金井の売り

- ・今後小金井市で売りをピックアップしてもいいのではないかな。

○その他

- ・管理と整合性、情報発信をどうおこなうかが大切。
- ・いろいろな人の合意がないと難しい、持続のためにはバックアップをつくらないといけない。
- ・小金井市を思う気持ちを分かち合える事業にしたい。
- ・市民を巻き込んでいく体制を考える。
- ・窓口を決めればすぐに始められると思う。
- ・立川の体制の方が実現しやすいかもしれない。

○視察の様子



立派な会議室でのヒアリングとなった



対応いただいた神谷氏（右）と星野氏

(4) 第4回ワークショップ

第4回ワークショップの開催概要を次にまとめる。なお、樹木廃材粉碎事業については、担当課の都合により、平成23年2月25日（金）に別途開催した。

【 コミュニティポータルサイト運営事業、(仮称) ロケーションサービス事業 】

- 開催日時：平成23年2月19日（土）9：30～12：00
- 開催場所：前原暫定集会施設A会議室
- 参加者数：17人（職員8人、市民9人）
- プログラム

09：30	開 会	○あいさつ
09：40	ふりかえり ～視察について～	○事業ごとに確認 ・ポイントと課題 ・その他
10：00	グループワーク 事業ごとの話し合い	○事業ごとに3つのテーブルに別れて ・視察報告などを確認 ・協働事業に向けての課題を再確認 ・事業企画をまとめていこう
11：30	発 表 ～グループごとに～	○話し合いの流れ、方向を紹介 ・提案などを紹介、共有
11：50	閉 会	○あいさつ ・次回案内など

【 樹木廃材粉碎事業 】

- 開催日時：平成23年2月25日（金）13：30～16：00
- 開催場所：本庁暫定1階第1会議室
- 参加者数：12人（職員3人、市民8人、準備室1人）
- WSの様子



ポータルサイト運営事業の話し合い

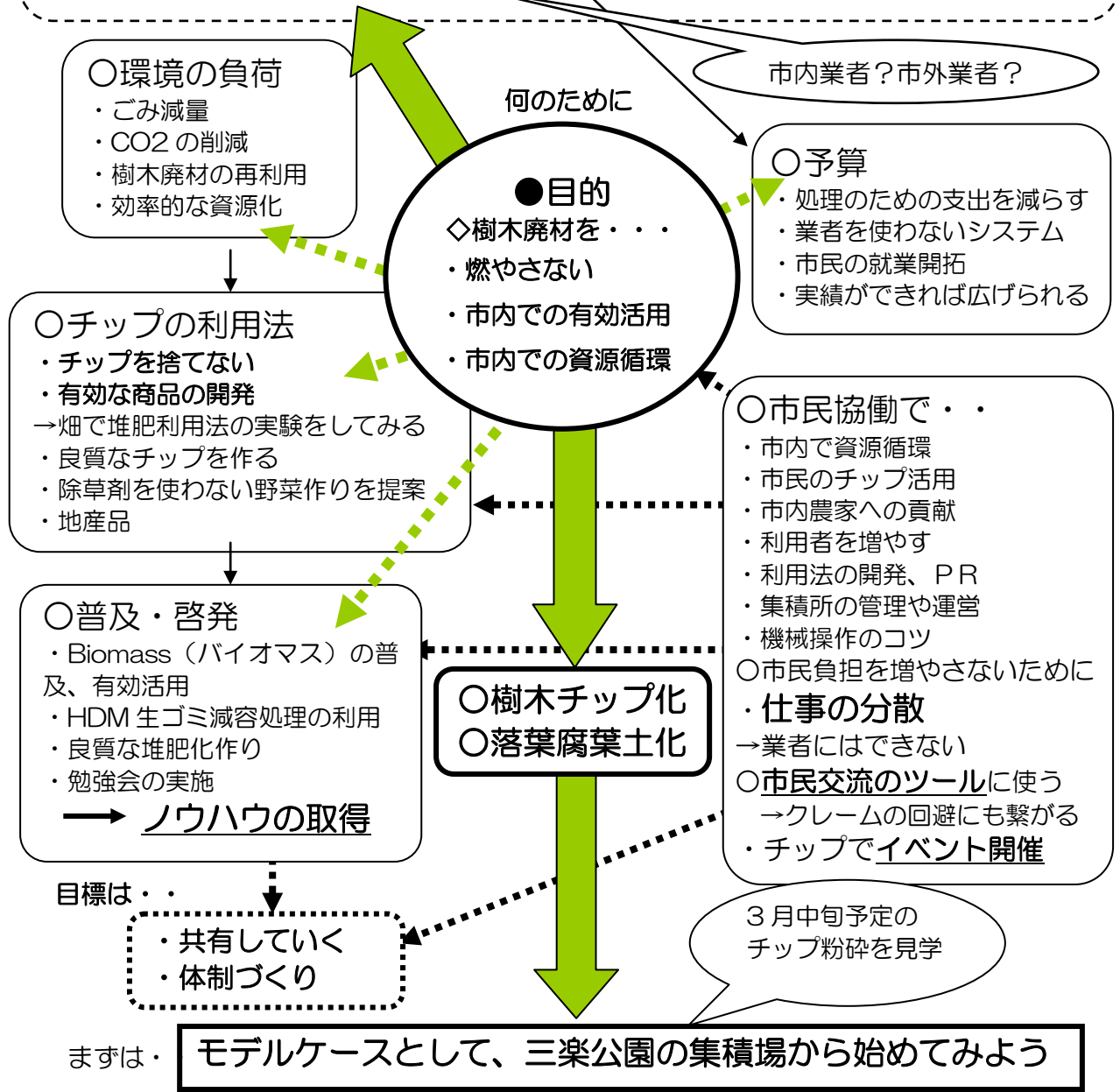


ロケーションサービスの発表

次ページから、グループ毎に話し合っ発表した内容をまとめる。

■樹木廃材粉碎事業

- 三楽公園～市内公園の樹木集積場、年1回のチップ化（50立米位）、3/中旬粉碎実施
 - ・レンタルチップパー機が小さいので多量の樹木廃材は無理
 - ・枝葉も一緒にチップ化しているため、チップとしては質が良いものではない
 - ・まだ市民への配布までを環境課では考えていないが、チップ後は積まれて在る状態
- 梶野公園・・・使用開始・運用は未定
- 現在の市内の樹木廃材
 - ・公園（環境政策課）
 - ・学校（教育委員会）
 - ・街路樹（道路管理課）
 - ・・・各担当先が業者へ委託している
- 各家庭（ごみ対策課）
 - ↓
 - 市内全戸の完全業者委託が決定。群馬でのチップ化・有効活用が決まっている。



■コミュニティポータルサイト運営事業

○どんなサイトをつくる？

例えるとどんな車？

⇒スポーツカー？ワンボックス？

これが理想像！ 車ではなく

「いろいろな車種を扱うディーラー」

◆ポータルサイトの目的はこれ！

○情報の発信・更新：市民間、市民団体、行政、企業など

・地域情報の交換・小金井を売り込む、自慢する

○みんなで作る、参加する：わがまちを知る、楽しむ～学生も

・市民が小金井をもっと知る(内向きでOK)、地域が好きになる

・市内大学・専門学校等との協働・つくる過程でまちを知る

○くらしのサービス・困った時

・困った時、緊急時、そうでない時も・・・市民間でも行政でも

・困っている人達の情報交換・共有の場・市民のための便利情報

○信頼できる・安心、安全な情報

・市のページは信用できる、それに順ずるサイト、

市のHPでは表現できないコンテンツ

地域情報の発信、小金井のことを知ってもらう情報発信

・小金井を売り込む、知らせる

・専門サイトへのリンク専門家が集まるページ

基本的な考え方は…

郷土愛と市民の絆

市HPでは出来ない
小金井の情報を送受信

市民が
小金井をもっと知る

人々の情報交換
市民のための便利情報

ネットワーク作り・つながり
小金井のニュース発信
成長していくリンク集

・地域での起業の契機！
・毎日見たくなるものに！
・住んでいるだけでは詳しけれない
・市民の大半が知っているサイトに

◆情報のどこでもドア・「小金井」の入り口

◆「情報のディーラー」

◆目標は「ワンストップサービス」！！

⇒ポータルサイトを通して信用できるサイト、情報にたどりつく

ポータルサイトの課題 Q&A

Q、SNSやTwitterなどの情報媒介が増えている中でコミュニティポータルサイトは見てもらえるのか？

A、信頼できる情報をより早く深く掲載することで、勝負したい。

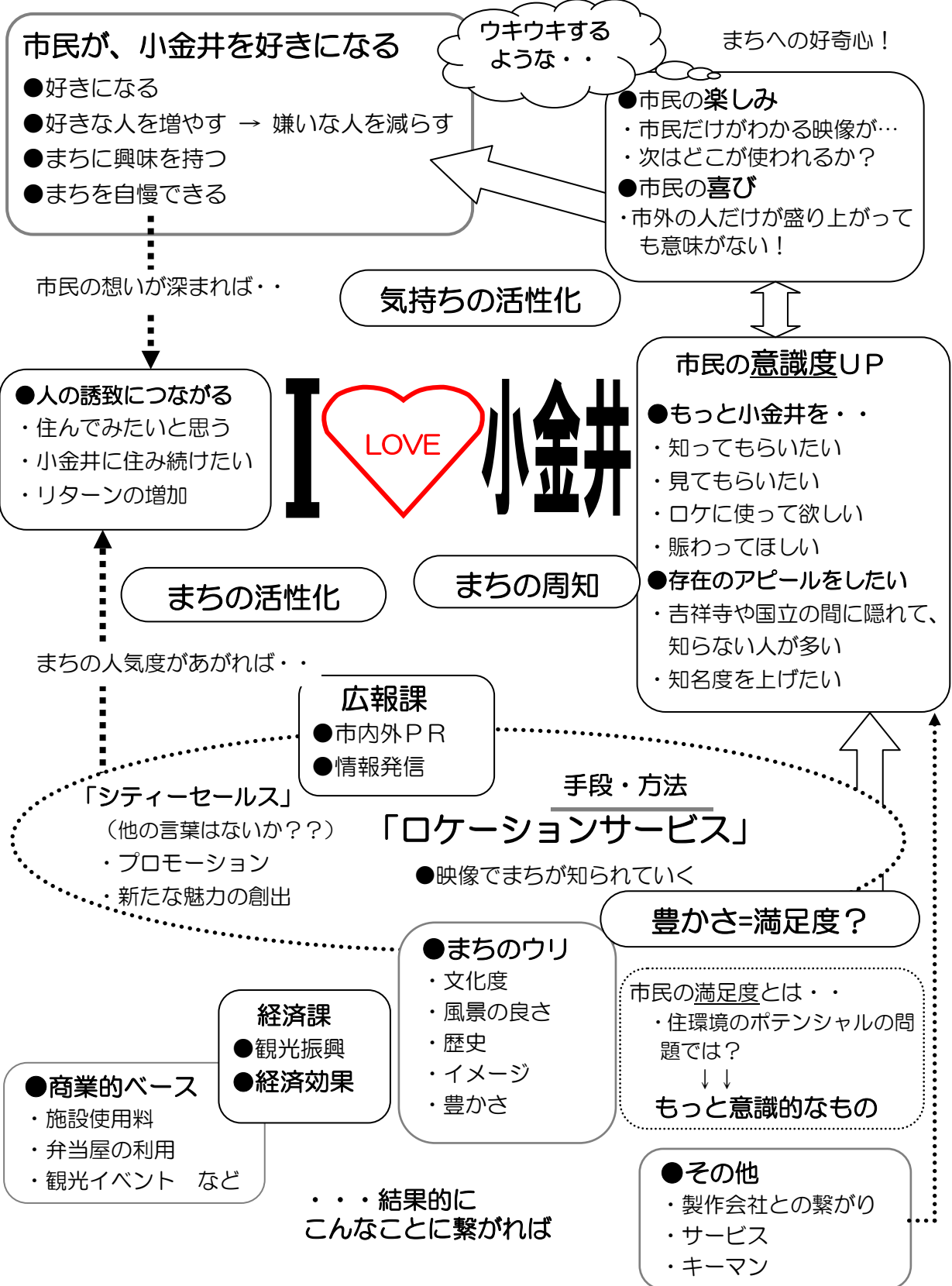
最終的な目標はまちづくり。

Q、市が関わる以上、ネガティブな情報は書けないがどうするのか？

A、これから検討

■（仮称）ロケーションサービス事業

◇目的・目標・・・なぜロケーションサービス事業をするのか？



(5) 第5回ワークショップ

第5回ワークショップの開催概要を次にまとめる。

- 開催日時：平成23年3月5日（土）9：30～12：00
- 開催場所：前原暫定集会施設B会議室
- 参加者数：23人（職員6人、市民15人、準備室2人）

○プログラム

09：30	開 会	○あいさつ
09：40	ふりかえり ～前回の話し合いから～	○事業ごとに確認 ・ポイントと課題 ・その他
10：00	グループワーク 事業ごとの話し合い	○事業ごとに3つのテーブルに別れて ・協働事業に向けての課題を再確認 ・事業企画をまとめていこう *グループごとに休憩を入れてください
11：30	発 表 ～グループごとに～	○話し合いの流れ、方向を紹介 ・提案などを紹介、共有
11：50	閉 会	○あいさつ ・次回案内など

○会場の様子



ロケーションサービスの話し合い



ポータルサイト運営事業の発表

次ページから、グループ毎に話し合って発表した内容をまとめる。

なお、樹木廃材粉碎事業については、日を改めて三楽公園視察を行った。

■ 樹木廃材粉碎事業

目的
○市民の目に見える市内循環システムづくり

目標
○三楽公園集積の処理、落葉の腐葉土化を市民が関わり活用できるようにすること

● 三楽公園集積場

- ・チップ済みのものが集積され続けている。
- ・溢れる前に市内での有効活用を考えたい。

○ チップ化

■ そのままの活用 → 活用：撒き

花壇、公園、農家、学校、庭 など

- ・ 良質なチップ化
- ・ 葉と枝の分別
- ・ チッパー機の騒音問題

回数を分ければ小型
チッパー機でもOK

年1回の稼働 → 作業を年数回に分けること
で、1日の稼働時間を短縮できる

■ 堆肥としての活用 → 活用：撒く

花壇、農家、庭

- ・ 堆肥の種類
- ・ 臭いの問題
- ・ 実際のエコ堆肥づくりの研究

キノコ
微生物
糸状菌…等

■ その他

- ・ 樹木の剪定

エコ堆肥・腐葉土は、科学。
教育にも役立つ！！

○ 市民協働

動かす = 体制づくり

■ マネージメント

■ 管理

■ 広報

■ 全体像の理解、共有

- ・ 道具調達なども

○ 問題・課題

- ・ 場所
- ・ 堆肥、腐葉土のノウハウの取得
- ・ 有効活用へのプロセス

● 落葉

- ・ 集積場所をどうするか
- ・ 対象は？ …市内公園、街路樹など
- ・ 自然に落ちるのもの
→ 収集の問題

カブトムシやクワガタを
配るとか。楽しみを！

○ 腐葉土化

- ・ 堆肥と同様に臭いの問題

○ 焼き芋 → 子どもが参加できる

- ・ 落葉焚火問題
- ・ 小金井で活躍する市民団体に声をかければ、お知恵を拝借できるかも

○ 勉強会をしよう

- ・ 腐葉土づくり、堆肥づくり実施や研究をしている方を講師に呼ぶ

○ 三楽のチップ粉碎を見学しよう

・ 3/17(木)午前 10:00～

三楽公園集積場現地にて

■樹木廃材粉砕事業 三楽公園チップ粉砕作業見学

○実施日時：平成23年3月17日（木）10時～11時30分

○場所：三楽公園

○参加者数：8人（職員3人、市民5人）

◆内容

- ・置場より取り出されたチップの確認→数年にわたり積み続けられたチップは、下の方（古いもの）は堆肥化が進んでいた。放置されていただけが堆肥としては良質なものになっていた。
 - ・粉砕機の騒音を測定機にて、公園内とその周辺の音量を測定。（※測定結果は環境課より報告）
 - ・三楽公園に約1年間集積された廃材樹木の他、今回は葉のついた生木を用意。手で木を集めて粉砕機へ投入する作業を見学。枯れ木と生木の騒音の違いも確認する。
- 枯れ木の粉砕音が大きく、作動時間が長いと近隣のストレスになる可能性はある。

◆蛭田植物園 中山さんのお話

○現在の作業について

- ・年1回、1日半位の作業、3-4人で行なっている。チップパー機にて樹木粉砕、集積される。
- ・騒音については、すぐ隣にあるマンションを含め近所へ作業日程や時間についてのチラシ（50枚程度）配りを行ない、理解を得ている（業者が行なっている）。特にクレームは来ていない。
- ・粉砕の際にチップが舞うため、置場の道路および広場側はブルーシートで覆っている。
- ・三楽公園及び市内公園や広場など数カ所にわたる樹木剪定も請け負っている。剪定した樹木は持ち帰り、チップに粉砕後、別途業者に引き渡すためチップの行き先（処理方法）は不明。

○チップパー機の利用について

- ・チップパー機はレンタル。1日4万円程度。他に、機械搬送のためのユニックを使用。
- ・機械はディーゼルエンジン搭載。最大処理径150mmだが150mmの樹木を入れると詰まりやすい。
- ・資格はとくに必要ないが、安全面を考えるとプロ（業者）が居た方がいい。
- ・堆肥作りなどは前提にしていなかったため、チップ粉砕の際の水撒きなどはしていない。

○市民協働について

- ・稼働率が問題。機械や運搬車のレンタル料（もしくは維持費）+ 配送車料 + 労働力を考えると、現在の樹木廃材量なら、年に数回に分けて行なうのは効率的ではない。
- ・三楽公園に集積される廃材樹木量を増やすのは難しく、他の場所を確保する必要がある。
- ・市民が関わるのなら、落葉の方が小規模でやりやすいと思う。集積されたチップも、置場からチップを掘り出すのは機械を使わなければ、かなりの労力になる。

○ミーティングまとめ

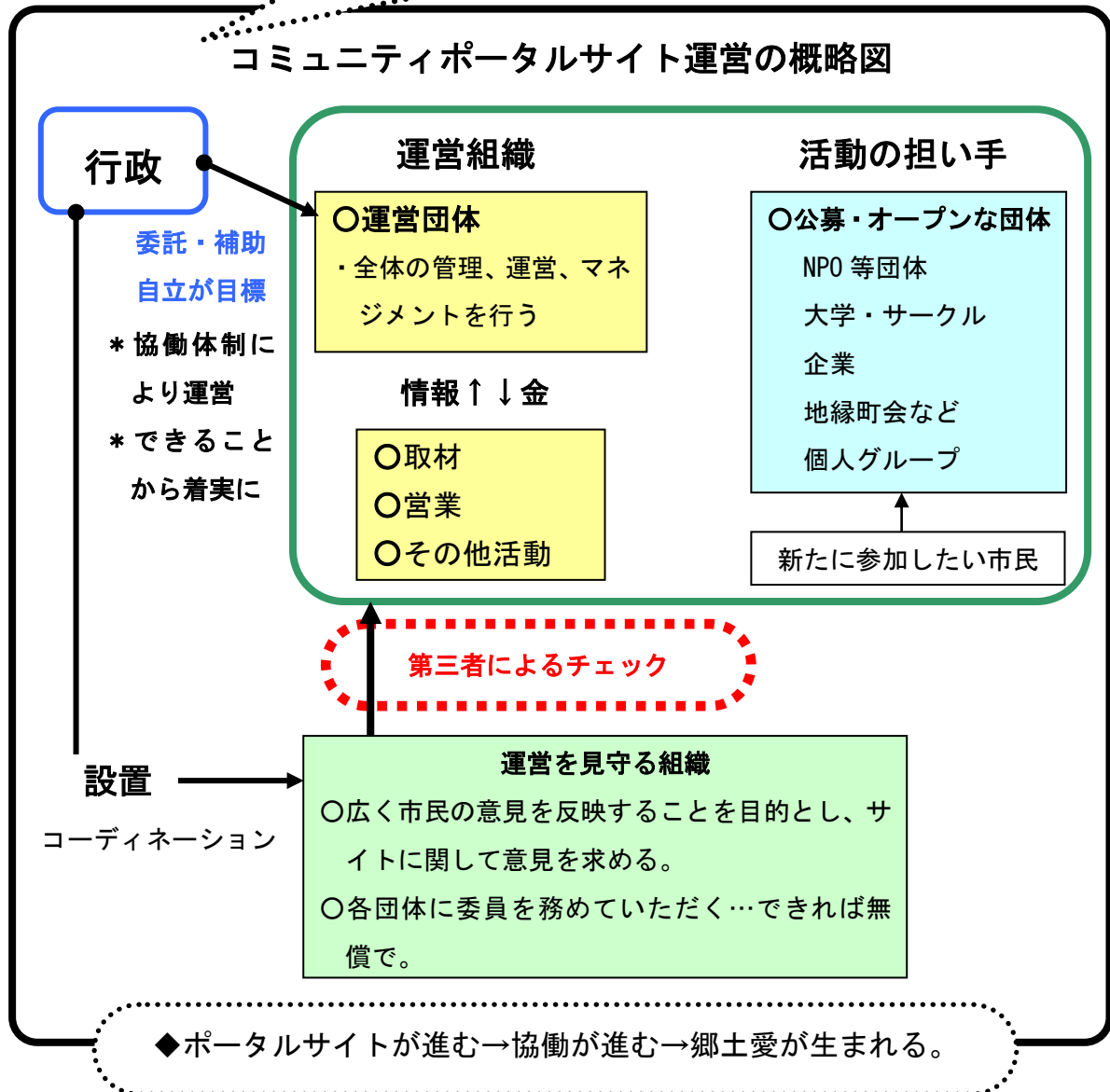
- ・堆肥化までを考えての粉砕作業が考えられる。粉砕時に水をいっしょに撒く、水は近隣のマンションなどの雨水を貯めて使う、など。
- ・市民が業者の代わりをつとめるということではなく、別の目的や意味、価値を考えていきく。
- ・自然循環や堆肥づくりは地域での学習、教育モデルとして有意義、発信する機会にしていく。

■コミュニティポータルサイト運営事業

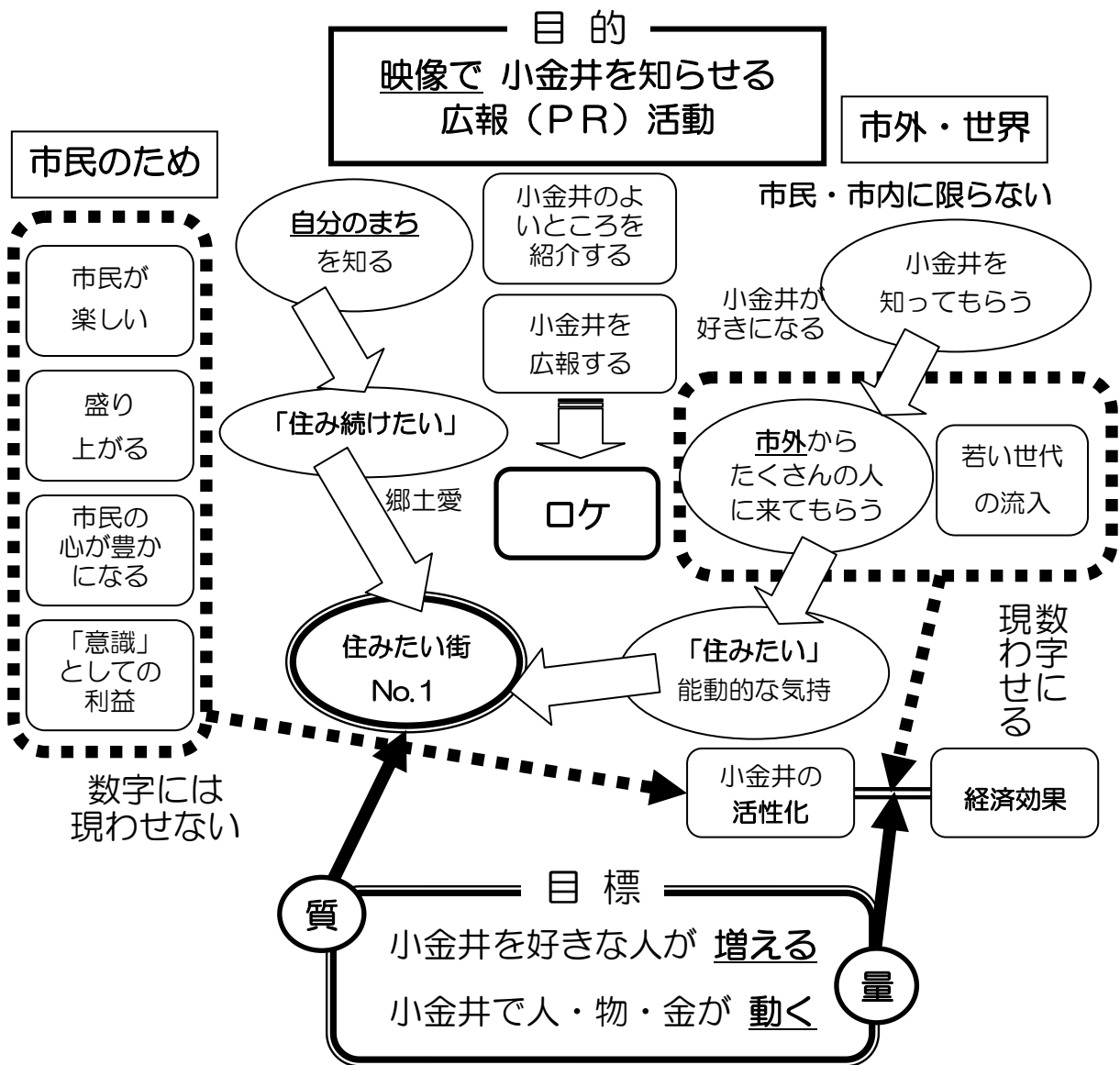
「運営」のポイント

- どのような運営体制なのか？
 - ・複数の団体が同時にかかるとまとまらないことが多い。
 ⇒公募などにより市民団体や企業などに委託・補助を行い運営を始める。
- 運営組織の役割は何？
 - ・サーバー管理、取材、営業など運営に関するさまざまなこと
 ⇒コーディネーターであり、マネジメントも行う
- 運営の方法
 - ・協働によって運営していく

コミュニティポータルサイト運営の概略図



■ (仮称) ロケーションサービス事業



活動内容へのキーワード

- ◆金がなくともできること ・金がないとできないこと
- ①準備期・事業をはじめるために
計画づくり／条例づくり／行政予算確保／都との調整／ロケ実績調査／スタッフや利用者のルールづくり・組織化／運営規約／使用料設定／窓口設置／まち歩き／ロケ弁調査／候補地の情報収集・開拓・発掘／売り込み先の調査・リスト化
- ①②またぐ
学校施設の撮影使用／人脈づくり／大学との連携／既存団体との連携 (NPO、阿波踊り等)
- ②事業開始後
WEBサイト／小中学校にPR／情報発信／ロケ誘致／広報強化／ロケが来ることの周知／ロケハン立ち会い／中国語・韓国語の看板／ロケ弁手配／施設の保全・保護／他市FC等との連携／エキストラの組織化
- ③軌道に乗ったら
イベントの誘致／情報の追加・更新方法／ロケ弁開発／ジブリとの連携

3) 協働事業の企画案

平成 22 年度に行った 5 回の WS により、協働事業として企画案の検討を進めた。その 3 事業の企画案を以下に列記する。

(1) 樹木廃材粉碎事業 企画書 (案)

①事業名

(仮称)「小金井の木々は小金井に返そう！」事業

②目的・目標

- ・樹木廃材や落葉の粉碎、腐葉土化などの作業を、市民や子どもたちとともにを行い、小金井の環境を知り、伝え、考え、行動していく循環型社会づくりに寄与していく。

③運営組織体制

- ・当面は本事業の WS 参加メンバーが中心となり、協働事業としての企画、運営に取り組みながら参加メンバーの拡充を図る。
- ・三楽公園での取り組みによって、作業の段取りやすめ方を習得し、これと並行して事業の広報などを進めていく。

④活動内容・スケジュール

- ・平成 23 年度は、組織固めと市担当課との協力、連携体制の強化を図る。
- ・当面、三楽公園周辺の町内会、第四小学校などが取り組みに参加できるプログラムなどを用意し、広報周知しながら参加を募っていく。その際には、専門家を招いてのレクチャーなどをあわせて開催し、学習の機会なども用意する。
- ・平成 24 年度以降、参加メンバー数や作業の習得状況により対象とする公園やエリアを少しずつ拡大していく。

⑤役割分担

○行政

- ・廃材や落葉の運搬作業、トラック等の手配など、必要に応じて支援、物資の提供を行う。
- ・取り組み、イベント等の積極的な広報周知。
- ・また、活動レベルの向上、エリアの拡大などに応じて、活動費の確保を進める。

○市民

- ・本事業グループのメンバーを中心に活動、企画などに取り組み、広報などを通じて参加メンバーの拡大に努める。
- ・また、状況に応じて専門家などを招へいし、学習会などの企画、開催を行う。

(2) コミュニティポータルサイト運営事業 企画書 (案)

①事業名

(仮称)「ポータルサイト・こがねい」運営事業

②目的・目標

- 情報の発信・更新：市民間、市民団体、行政、企業など
 - ・地域情報の交換・小金井を売り込む、自慢する
- みんなでつくる、参加する：わがまちを知る、楽しむ～学生も
 - ・市民が小金井をもっと知る（内向きでOK）、地域が好きになる
 - ・市内大学等の協力を得る
 - ・つくる過程でまちを知る
- くらしのサービス・困った時
 - ・困った時、緊急時、そうでない時も・・・市民間でも行政でも
 - ・皆の情報交換・共有の場・市民のための便利情報
- 信頼できる・安心、安全な情報
 - ・市のページは信用できる、それに順ずるサイト、
 - ・市のHPでは表現できないコンテンツ（お店情報、特色ある市民団体）
 - ・地域情報の発信、小金井のことを知ってもらう情報発信
 - ・小金井を売り込む、知らせる
 - ・専門サイトへのリンク専門家が集まるページ

◇目標 小金井情報のディーラーに！

③運営組織体制

- ・公募等により、行政が企画、運営をまかなう組織、団体を公募し、運営の補助を行う。その運営は、協働体制によって進め、関連する市民活動団体等の協力を得ていくこと、提案などを積極的に受け入れていくことなどを前提条件としていくこと。

④活動内容・スケジュール

- ・運営組織の体制、役割、拠点などについて、本事業グループのメンバーで検討を重ね、運営組織、団体の公募等手続きなどについても確認していく。
- ・可能な限り早い時期に、プロポーザル方式等を経て運営組織の選定を行い、補助金による運営を始める。

⑤役割分担

○行政

- ・事業の運営体制の構築に努めるとともに、必要な活動、運営資金の確保、補助金等の手続きを進める。

○市民

- ・協働体制による事務局運営に積極的ににかかわるとともに、情報の受発信に努める。

(3) (仮称) ロケーションサービス事業 企画書 (案)

①事業名

(仮称)「黄金井ロケーションサービス」事業

②目的・目標

- ・映像によって小金井を知らせる
- ・市民が積極的ににかかわる小金井の広報、PR活動の一環

◇目標 小金井を好きな人が増える～小金井で人・物・金が動く

③運営組織体制

- ・当面は本事業のWS参加メンバーが中心となり、小金井の基本的な情報の収集、共有化を図り、情報の蓄積を図る。
- ・これと並行して、運営体制の検討を進め、組織化をめざす。

④活動内容・スケジュール

- ・平成23年度は、運営体制、情報の受発信の仕組み等の検討を十分に行い、現メンバー間の情報共有を図る。あわせてサービス提供の条件などについても検討を進める。
- ・まち歩きや関連する取り組み事例などの学習会などを開催しながら、活動の広報、周知を進め、メンバーの拡大に努める。
- ・平成24年度からは、積極的な広報、ロケーションサービスの提供を行い、小金井情報の発信に努めていく。また、状況に応じて資金の確保を目指す。

⑤役割分担

○行政

- ・関係部課に横断的ににかかわる取り組みであるため、活動内容、取り組み等に関する情報の行政内部での共有を積極的に図るとともに、関連する取り組み等情報の提供も行う。
- ・運営体制構築に向けての支援、状況に応じたの予算確保等。

○市民

- ・本事業の取り組みに積極的に参加し、運営体制の構築に向けての検討、積極的な提案などを行う。
- ・関連する小金井市の情報の受発信に努める。

■ 3 協働推進ワークショップの成果

平成22年度は、委員会が行った庁内各課へのアンケート調査を経て抽出された3事業を対象に、ワークショップ形式で協働事業の企画、検討を行った。

いまだに曖昧な位置づけにある「協働」という言葉の意味、位置づけ、イメージ等の議論は、並行して設置、開催されている委員会にゆだね、協働推進ワークショップでは実践を通じて「協働」についての確認を進めた。

事業毎の話し合いのテーブルでは、なぜその事業が本ワークショップの俎上に上がってきたのか。参加する市民側からすれば、あがってきた素材、材料をどのように調理し、自ら、あるいはみんなで食べられるものにしていくのか、迷いながらも動機と現実を各自がつないでいく作業になったと考えられる。

全5回のワークショップから得られた成果を以下に整理する。

1) 協働事業実現の可能性

委員会のもとに設置された、市民協働に関する小金井市実態調査小委員会の作業から、次の3事業が抽出された。

- ① 樹木廃材粉碎事業
- ② コミュニティポータルサイト運営事業
- ③ (仮称) ロケーションサービス事業

事業の内容により話し合いの視点やポイントは異なるものの、協働事業としてどこで何を行うのかについて、ワークショップを重ねていくことにより参加メンバーの考え方、進むべき方向などが確認、共有された。

その結果、各事業の企画、取り組みの内容、当面の作業などが明確になり、かつ共有されたため、実際の事業化の可能性も考えられる。

特に、①樹木廃材粉碎事業は話し合いの出だしにつまずいたものの、当面の作業内容が見えたこと、落葉の腐葉土化の可能性が付加されたことなどにより、動機付けの高まりが感じられた。

また、②コミュニティポータルサイト運営事業については、運営にかかわる作業そのものは参加者間でイメージされているものの、コンテンツと実際の作業者をどのような手続きを踏んで選定していくのかが大きな課題としてグループの話し合いを左右していた。

結果的に、枠組みも確認され協働事業として立ち上がる方向で進められると考えられる。

③(仮称)ロケーションサービス事業については、対象範囲が広すぎるため、どこに目標を置いてどのように進めていくのか、基本的な条件を整えるまでに時間を要していた。

小金井のまちのために、小金井の市民がまちを好きになるために、という目的が確認された後は、比較的スムーズに話し合いが進んでいた。

今後も事業毎の話し合いを重ねていくことで、協働の推進が図られると思われる。

2) 新たな交流と信頼関係の醸成

ワークショップ形式による話し合いの進め方によって、行政職員、参加市民とも双方のスタンスや考え方を少しずつ理解し、問題点や課題を確認しながら話し合いを重ねてきた。

ワークショップ開催日程などの情報を委員会へ流すことによって委員の参加も得られ、現場に近いところでの「協働」の取り組みの形を共有することもできた。

また、第3回ワークショップに位置づけた他市事業の視察の事前広報により新たな参加も得られ、さらに参加者が新たな参加者を招き入れることで、取り組みだけでなくすすめ方や体制のつくり方などについて刺激を得ることにもつながった。

取り組めた事業の数や、市民や行政職員の数は限られたものであったが、その中から得られたものは多く、今後の協働での取り組みに対する良い前例になったと考えられる。

3) 協働モデル事業としての実施

本事業と委員会は並行して進められ、その事務局にも小金井市社会福祉協議会、小金井ボランティア・市民活動センター、市民協働支援センター準備室との情報共有、連携により取り組まれた。

さまざまな形の「協働」を進めるにあたり、事務局も多様な組織、団体等が協議してきた今回の取り組みは、事業全体として協働モデル的な意味、側面を持っている。

今年度の取り組み、進め方の課題をあわせて整理しておくことにより、今後の本市での同様の取り組みに対する糧としてつなげていくことが期待できる。

■ 4 協働事業推進に向けて

「協働」はより良い小金井のまちをつくっていくためには不可欠な要素であり、今後も積極的に推進して行かなくてはならない考え方であり、取り組みである。しかし、市民、行政ともその共通理解には至っておらず、依然として意味やとらえ方がさまざまである。

協働事業としての本事業での取り組みの規模は大きいとは言えないが、これを一つのきっかけとして協働の芽をていねいに育てていくことによって、今後の協働推進のヒントが得られ、次の「協働」につなげていくことが期待される。

本事業で企画案をまとめた3つの取り組みを維持、継続させていくことが当面の課題であり、市民、行政ともそれぞれ役割を担いながら積極的にかかわっていくことが重要で、小さな取り組みであっても一歩ずつ着実に進めていく必要がある。より良い環境を整えていくための課題を以下に整理する。

1) 協働3事業の取り組みの広報周知

ワークショップを経て企画をまとめた3事業は、今後も継続的に話し合いながら活動を進めていくことが望ましい。そのプロセス、進め方に市民、行政が互いに配慮していくことによって、双方に信頼関係が生まれ、より円滑に事業が進んでいくことが期待される。

同時に、これら事業の内容、状況を市報等を通じて周知し、参加者、協力者を継続的に募っていくことも大切である。

2) 協働による活動の維持、継続、拡充

協働事業は、市民と行政が協力しながら一定の活動レベルを維持し継続していくことが求められる。当面は当該事業にかかわる市民、市職員相互の信頼関係の構築に努め、応分の役割を担いながら事業を維持、継続されることが望ましい。

運営体制を整えるとともに、参加メンバーの拡充へと移行していくような段階的な取り組みの進め方をとっていくことも必要である。

3) 多様なセクターとの連携

市民、行政双方の「協働」の共通理解を進めていくためには、さまざまなテーマやジャンルの取り組みにおいて、その考え方に基づいて事業等を進めていく必要がある。そのためには、特に市民、民間側の多様なセクターと行政担当部課等との連携によって体制をつくり、互いのニーズ等を共有しながら進めていくことが重要である。

これは、市民団体間、行政内部でも同様のことが課題としてあげられる。市民、行政にかかわらず、自らの事業、取り組みに関する情報の受発信をアンテナを張りながら行

っていくという積極的なスタンスが必要である。

4) 活動資金の確保、予算措置

本事業で取り上げた3事業の運営には、運営体制の維持などに相応の費用が求められる。ワークショップに参加していただいた市民の方々には、取り組みに対する関心、意識の高さがあるが、それに行政として応える意味でも必要経費など、活動を続けていける程度の予算の確保、措置が求められる。

5) 協働事業の確認と評価

本事業で取り上げた3事業が今後どのように進められ、成果を上げていくのか、それぞれの事業に携わる市民の方々、市職員の活動意欲に期待したいが、一定期間を経た後の取り組みの成果、評価も求められる。その確認、評価の上で次の協働事業のあり方、進め方を確認し、市民と行政の新たな関係づくりのステップに上がっていくことが可能となる。

協働事業においても、計画(plan)→実行(do)→評価(check)→改善(action)というマネジメントのサイクルを当てはめることができる。特に評価の基準は、できていること、できなかったことなどを段階的に表してわかりやすく評価し、とるべき方向を示していくことも求められる。

■ 5 資料編

プレワークショップ、ワークショップを開催するにあたって、広く周知のために市報への掲載と共にチラシを作成して配布した。

○プレワークショップのチラシ


(案)

やってみよう！ワークショップ

協働推進ワークショップ

さまざまな場面で市民と行政が一緒に話し合う機会が増えてきています。充実した話し合いを進め、内容をまとめていくコーディネーションが、特に重要になっています。

今回の研修では、市民と小金井市職員と一緒にグループワークを体験し、合意形成のプロセスを学びます。ぜひ体験してみてください。



<p>こんな会議はつかれる…</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 長い <input type="checkbox"/> 居眠りしたくなる <input type="checkbox"/> 時間がもったいない <input checked="" type="checkbox"/> よくわからない <input checked="" type="checkbox"/> 一方通行 	原因はナニ？	<p>まず経験！</p> <p>みんなが納得する話し合いとは？ 目線は？ 身振り手振り？ 声の出し方？</p>	<p>ワークショップ？ ファシリテーション？ コーディネーションって？</p> <p>・やってみよう・</p> <p>体験講座 で実践！</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------	----------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

<p>第1回 9/24 (金) 9:30~12:00</p>	<p>合意形成ってなに？ 市民、行政、それぞれの情報を共有しながら、どのような話し合いを経てものごとをまとめていけばよいのか、その合意形成の方法を、グループワークを通じて学びます。</p>
<p>第2回 10/8 (金) 9:30~12:00</p>	<p>やってみよう！ワークショップ 仮想の公園整備案づくりを進めるワークショップを行ないます。近隣住民や想定される利用者の意見をどのように取り入れ、どのような公園をつくるのか、ワークショップ形式で合意を形成する方法を学びます。</p>

場所 両日とも 小金井市前原暫定集会施設 A会議室

問い合わせ先 小金井市コミュニティ文化課 岩佐、山田 042-387-9923

2010.08

平成 22 年度
協働推進ワークショップ
報告書

小金井市市民部コミュニティ文化課
小金井市前原町 3-33-27（前原暫定集会施設内）
電話：042-387-9923
メールアドレス：s030299@koganei-shi.jp
